

郷音 灘



北九州空港

雪云のうゑ

北九州市

14

遠賀川

周防灘

海峡

海

筑豊線

北九州線

小倉線

東海道

日豊本線

本城

折尾

筑豊電鉄

西山

通谷

東中間

筑豊高校前

希望

筑豊香月

楠橋

新木屋瀬

木屋瀬

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

志井公園

志井

石原町

呼野

小倉

九州大前

戸畑

若松

奥洞海

二島

本城

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

石原町

呼野

関門橋

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若戸橋

若戸渡船

若戸

若戸

若戸

若戸

若戸

若戸

若戸

若戸

若戸

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線

東海道

都市モノレール

志井公園

下曾根

朽網

志井公園

志井

若松

奥洞海

二島

本城

折尾

陣原

黒崎

八幡

枝光

石之志

南小倉

西小倉

城野

石田

下関

関門汽船

関門

小森江

門司港

門司

山陽新幹線



福岡にインプラントのためのチーム結成!

インプラントの デンタル クリニック ジャパン 今、インプラントが身近になった!

インプラント1本 税込
インプラント治療に保険は適用されません。
147,000円~262,500円

各種保険診療
取り扱い



審美歯科専門医

美容整形医師

口腔外科インプラント医

インプラントエキスパート専門医

口腔外科医・歯学博士

エキスパート専門医

歯学博士

症例数1万本を超える実績

※平成15年4月~平成22年11月までの実績

もっと詳しくは無料相談・無料資料請求でどうぞ



0120-24-1818

ホームページは

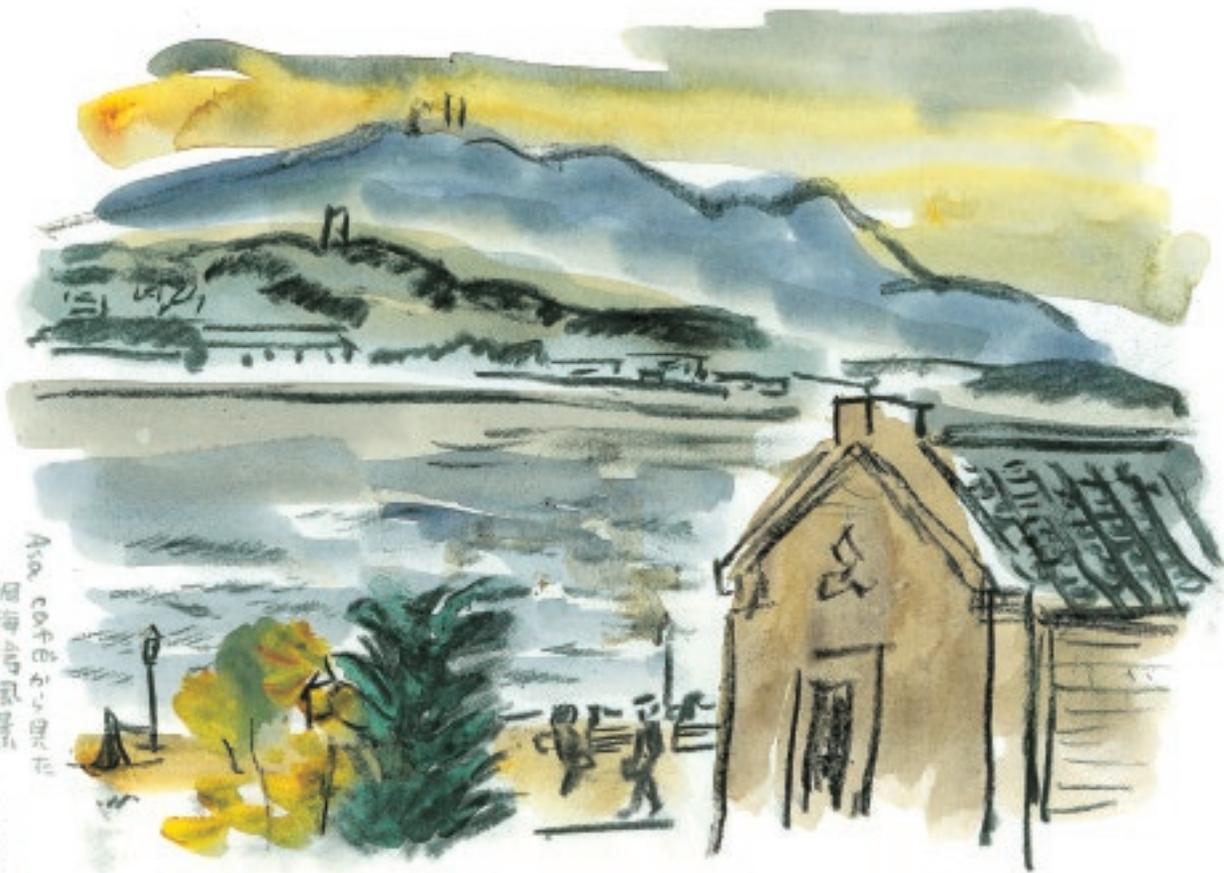
デンタルクリニックジャパン

検索

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目30-15ライオンズマンション博多2F

診療時間/平日10:00~20:00 土10:00~18:00(日・祝休) 昼休み13:00~14:30

「Asa café」(P8)の窓辺。特等席から眺めた洞海湾の夕景。太陽が山に沈むと、薄く尖った三日月が雲の間から顔をのぞかせた。



Asa caféの窓から見た
洞海湾の風景
2010年10月9日
伊三七

見
雲のうえ14号
線路の上から見た街。
物資を運び、人を運び、生活そのものを運ぶ。
そして機関車には、あこがれが乗っていた。
談話九州鉄道記念館・宇都宮照信 絵・牧野伊三夫

特集
電車に乗って。

- 4 日田彦山線
文||鈴木伸子
- 6 鹿児島本線・筑豊本線
文||鈴木伸子
- 14 洞海湾鉄道紀行。
文||鈴木伸子
- 22 日豊本線
文||岡戸絹枝
- 30 うらうらと乗り歩き。
文||岡戸絹枝
- 38 筑豊電気鉄道
流れてであうは、ちくてつ友。
文||つるももこ

「雲のうえ14号」
2011年1月25日発行
題字・表紙||牧野伊三夫
アートディレクション||有山達也 デザイン||岩瀬恵子
編集||つるももこ 校正||齋藤晋
©北九州市2011
本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。
*特集内に登場する一部の路線には、ダイヤル車も走行していますが、ダイヤルには一般的な呼称である「電車」を使用しました。

初めて寝台特急に出合ったのは、昭和35（1960）年、11歳のとき。博多駅に特急が入ることを地元の駅員さんに聞いて、わざわざ見に行った。当時はすでに、「あさかぜ」を始めとしていくつもの寝台特急が博多と東京を往来してつたんです（*1）。10トン近くの石炭を積んで、客車は13〜15両。それが時速約100キロで走る。こんなに大勢の人、荷物を乗せた列車を一生懸命引っ張っていく機関車はなんてすごいんだ！ いか自分も機関士になりたい、機関車と共に働きたいと思いました。

中学3年のときに、国鉄の試験を受けに行きました。鳥栖とすの試験会場（*2）は、鹿児島本線と長崎本線がちょうど分岐する場所にあった。そこに機関車が何台も停まってあって。見とれてしまって試験どころじゃなかった。結果は……、通らんかったですね。香椎かしいの工業高校に進学してからも、1週間に2回は、学校には行かんと鳥栖へ機関車を見に行っていました。なんとか機関車の傍で働きたかった。卒業後、就職したのが、線路の溶接や分岐器造り、信号機の設置をする製作所です。昭和43（1968）年に八幡の事業所に配属されて、北九州市に来ました。

いちばん思い出に残っている乗務は、長崎―京都間を往来していた寝台急行「雲仙」ですねえ。3年の見習いを経てやっとの思いで調理師免許を取得し、チーフ（料理長）の2番手である「すけさん」と呼ばれる調理助手として切り盛りをしていたとき。1畳ほどの小さな厨房で、忙しくとりまきました。当時はご飯も石炭レンジ（*4）で炊いていましたから。乗務中は、23時半頃に後片付けを終わります。深夜0時から起床時間である3時半までの数時間が自由な時間。外の景色を眺めるのが、もう楽しくて仕方がなかった。19時頃、長崎から出発すると、まずは海辺の、猫の額ほどのせまい路を通る。博多に着くのが22時頃。人里離れて峠を越えて、折尾から黒崎あたりに差し掛かるのが23時前後。真夜中なのに突然明るくなったなあとと思ったら北九州市です。煌々こうたうと光る工場群の灯り、真っ赤

街は都会やった。八幡駅のホームは、弁当売りや物売りの店が軒を連ねて、鉄道を利用する人で溢れていました。八幡から戸畑とばたにかけての踏切・ポイントや、八幡製鐵所の構内鉄道の線路も毎日点検して歩きました。製鐵所は昼夜を問わず3交代制で動いていて、冷え切らない鉄の熱塊が2〜3両も連結した専用列車に



宇都宮照信さん

線路の上から見た街。

物資を運び、人を運び、生活そのものを運ぶ。そして機関車には、あこがれが乗っていた。

談 九州鉄道記念館・宇都宮照信
絵 牧野伊三夫

に燃える製鉄の高炉、煙突から立ち上る産業の煙。その中を列車は走り抜ける。タイムマシーンに乗って突然別の場所に連れてこられたような錯覚を覚えました。そういえば、南小倉駅から、小倉工場（*5）が見えるでしょう。「みずほ」「さくら」「富士」「はやぶさ」などの整備や、寝台の近代化や設備替えなどはすべてあの場所で行っていましたよ。乗務した車体に、「小倉工場整備検査」と入っていると、ああ、九州から一緒に来たんやなあ、となぜか安心したものでした。

機関車の動力が蒸気から電気になり、昭和50（1975）年に、新幹線が東京―博多間を全通すると、特急、急行列車はますます減って。旅をする人が減って、移動する人が増えたんですね。でも、しばらくして、ブルートレインが順次リニューアルされると、再び旅そのものを楽しむ人が増えたんです。

乗務を終えるまでの最後の5年間は、「あさかぜ」に乗り東京へ向かい、帰途は「さくら」に乗務し博多を越えて長崎へ（*6）。そのまま東京へ折り返し、再び「あさかぜ」に乗って博多営業所へ戻る、という2泊3日の旅を繰り返しました。わたしが列車を下りたのは平成10

載ってどんどん運ばれていくのを見ました。国鉄は、といえば、鹿児島本線はすでに電化されていたけれど、そこに蒸気機関車がひっきりなしに通るんですよ。客車に交じって、筑豊つくほう（本線）は石炭を、日豊（本線）側からはセメントを運んでくる。この街からあらゆる産業物資を線路に載せて日本中へ送りだしているのだ、と実感しました。

昭和39（1964）年に新幹線が東京―大阪間に開通し、昭和43（1968）年には大きなダイヤ改正（*3）がありました。列車の転換、エネルギーの転換が起こったんです。そこで、大好きな蒸気機関車も潰されていくと知って、いてもたってもおられなかった。すぐに会社を辞めて機関車を見に各地を訪ねることにしました。最後に行ったのが鹿児島。そこに停まっていたブルートレインに、白いコックコートを着て働く人の姿があった。まったく短絡的単純やけど、ああ、皿を洗っておいたら列車に乗れるかもしれん。頭を使わんでも好きな機関車に乗って仕事ができる、と思いました。やがて無くなっていく機関車をただ見ているだけではなく仕事にしたいとも思った。すぐに、「日本食堂」の門司営業所へ求

（1998）年。初めて食堂列車に乗ってから29年が経っていました。最初は、蒸気機関車が無くなり、代わりに登場する電車やディーゼル車をうらめしく思っていたものです。でも最近では考えが変わりましたよ。電車も人も歳をとるのは一緒やなあ。そう思ったらすべて同じように（愛おしく）感じるんです。

*1 「あさかぜ」は戦後初の東京行きの特急（昭和33年10月からはブルートレイン）として東京―博多間で運転開始
昭和36（1961）年までに、「さちかぜ」「はやぶさ」「さくら」「みずほ」が誕生。
*2 佐賀県鳥栖市「鳥栖駅」、旧日本国有鉄道車両基地（鳥栖機関区）。

*3 10月1日施行。別名「ヨンスントオ」昭和43年10月白紙大改正。
*4 石炭を燃料にした調理コンロ。オーブンも兼ねており、煮炊き、揚げ物すべてをこの1台でまかした。
*5 明治24（1891）年、九州鉄道株式会社小倉工場として発足。車両検査・修繕、部品製作、開発設計などの業務を担う。
*6 「あさかぜ」（下関―東京間）、「さくら」（長崎―東京間）ともに、平成17（2005）年3月1日ダイヤ改正にともない廃止。

参考文献 「機関車に片思い」（書肆侃侃房）
『食堂車乗務員物語』（交通新聞社新書）

うつつのみや・てるのぶ／昭和24（1949）年・福岡市生まれ。昭和44（1969）年「日本食堂」入社。食堂列車の調理師として乗務。のちにJR東海パッセンジャーズ勤務。ブルートレイン、電車、新幹線の乗務を経て、現在、九州鉄道記念館副館長。

電車に乗って。

城野駅から線路沿いを歩いて10分ほど、日田彦山線と日豊本線の分岐地点へ辿り着いた。左手には秋の足立山。猫じゃらしの原っぱで戯れていると、下りの日田彦山線が通り過ぎた。



はじまりは、たった二本の路。
路傍にひとが集い、灯りが点った。

街の生い立ちは、二本の道。
ひとは産業を生み、灯りは燃え、
そして鐵の道を、鋼の汽車が走り抜けた。

鐵の道は、汽車が、ひとが、ものが
無尽に行き来し、ときに立ち止まった跡。
時間が流れて、変わりゆく街にあっても
けつして消えない確かな足跡。

ホームに立つ。
電車が来たら乗ってみる。
駅に着いたら降りてみる。
理由はささいなこと。
そこに道があったから、
その先に街がみえるから、
ちよつとそこまで、歩きたいから。

絵 牧野伊三夫
文 鈴木伸子、石田千、岡戸絹枝、つるやもも

洞海湾鉄道紀行。

北九州市の洞海湾沿岸は、鉄と石炭の街という歴史を持つ。小学生の時に社会科で習った「官営八幡製鐵所」、そして映画やニュース映像では見たことがある筑豊の炭鉱、それらを見聞しに、小倉から鉄道に乗って海沿いの工場地帯を旅した。

大都会・小倉の街からは、海沿いに建つ工場の大きな煙突やヘビーマタルな建物群がよく見える。新幹線「のぞみ」号も発着する小倉駅。その在来線ホームからは、さまざまな路線が出ているが、そこで列車を待っていると、長い長い貨車を連ねた貨物列車が走ってゆくのを何度も見かけた。重厚長大な貨物列車は、鉄道のなかでも特に私が好むジャンル。「貨物」を見た途端、私の鉄道魂は刺激される。スイッチオン！

それらの鉄道なのだ。

やがて昭和30年代に石炭の時代は終焉し石油の時代が来る。その時まで石炭を運んでいたのは蒸気機関車。今回の旅でも、門司港や若松などの北九州市の街では、蒸気機関車の保存車両や動輪、貨車などの鉄道遺産を見かけた。それはこの土地と石炭の結びつきを思い出させる近代化遺産でもあるのだ。

天気の良い平日の午前中、小倉駅から鹿児島本線の列車に乗る。ここでは必ず車両の進行方向右側の席に座らなければならない。こちら側からは海沿いの工場地帯がよく見えるからだ。地図を見ると住友金属、新日鐵、三菱化学などの巨大な工場群が並んでいる。煙をあげる煙突、林立するプラント……、まさに「工場萌え」の世界だ。「ここは何の工場、どこの工場」と点検しながら見ていくと、ますます北九州工業地帯の世界に入り込める。車窓からは併走する貨物の線路、JR貨物の浜小倉貨物駅、海沿いの巨大工場の建物が見える。小倉から乗車して5つ目、沿線唯

鉄道、工場、貨物は常に三位一体だ。私はマニアというまでには達しないレベルで日々鉄道への愛好を深めている身だが、本物の鉄道マニアには、これはたまらない鉄道デイブエリアだろう。実際に小倉一帯では、駅ホーム先端で写真やビデオを撮影している「撮り鉄」君をたびたび見かけた。

洞海湾をめぐるには、小倉からまず鹿児島本線に乗る。小倉を発つと、西小倉九州工大前、戸畑、枝光、スペースワールド、八幡、黒崎、陣原、折尾。ここで筑豊本線（若松線）に乗り換えて、本城、二島、奥洞海、藤ノ木、そして終点である若松まで行く。

九州の鉄道地図を見ると、北九州市や福岡市付近に突出して線路が密集しているのに気づく。この線路の多くは、

一異質な感じがする名前のスペースワールドという駅に着く。ここは平成11年に開業した新しい駅。目の前には、新日鐵の工場跡地に造られた、宇宙をイメージしたテーマパーク、『スペースワールド』がある。

敷地にスペースシャトルがそびえ立つ姿は、一瞬、高炉の遺跡をリニューアルしたようにも見える。しかし、「東田第一高炉」は、そのテーマパークとはかけ離れた一角に圧倒的な存在感を

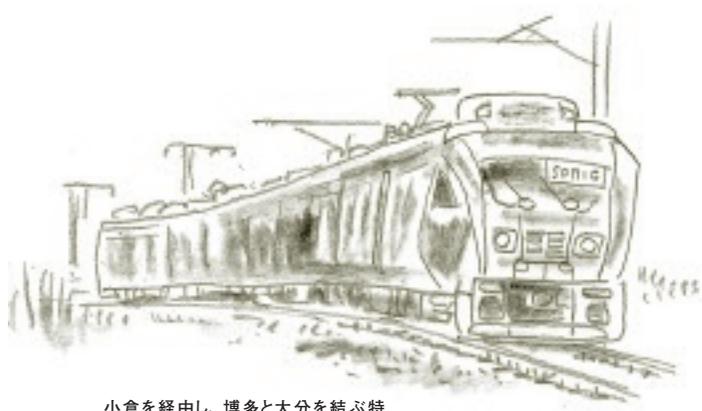


言わずと知れた駅弁、かしわめしの老舗「東筑軒」。市内の駅うどんスタンドは若松・折尾・黒崎に。☎ 093-601-2345

放って建っていた。

かつて明治政府のもと、この地で操業していた富国強兵の象徴、旧官営八幡製鐵所「東田第一高炉跡」に、昭和37年建設の高炉が保存されているのだ。その上部には、旧官営八幡製

すずき・のぶこ 執筆・編集業。東京都出身。大学卒業後、雑誌『東京人』編集運動。1997年より副編集長。2010年退社。都市・建築、町歩きなどをテーマに執筆活動中。著書に『TOKYO建築50の謎』『鉄道沿線をゆく大人の東京散歩』など。今年3月新たな鉄道本を刊行予定。



小倉を經由し、博多と大分を結ぶ特急ソニックは、ブルーとホワイトの2種のボディで走り抜ける。

石炭と工業のために敷かれたもの。明治になってから北九州一帯では、大規模な炭鉱の開発・採掘が始まる。その石炭を海沿いの工場や港まで運搬し、関西や関東への搬送を可能にしたのが、

鐵所の炉に火が入り操業を開始した年、「1901」が記されている。

晩秋の暖かい日中、平日なので誰もいない近代化遺産をゆっくりと見学する。溶鉱炉を覗き、製鉄のプロセスを書いた説明を読み進むと、ぐんぐんとその世界に引き込まれる。

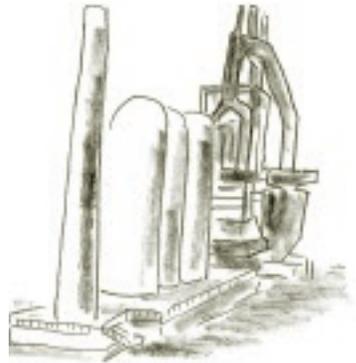
高炉で溶かされた鉄は、「トープードカー」という内側に耐火レンガを貼ったタンク貨車で転炉のある別の工場に運ばれ、成分調整され鋼塊となり、鉄の鋼板やレールなどの製品に加工される。この「トープードカー」も、ここには展示されているのだが、それを牽引していた機関車というのが、重量感の塊のようでごつくてカッコいい。機関車のなかの機関車という感じだ。まさに鉄をつくるための鉄道が、製鉄所の中では日々活躍していたのだ。

スペースワールド駅に来る途中、枝光駅の近くからは「新日鐵くろがね線」という貨物線が見えるという。こちらはレール製造用の鋼塊やホットコイルなどを運ぶための貨物線。あまりに魅力的な路線名で、一目その貨物列車の姿を見てみたかったが、今回の旅

八幡駅から海沿いの工場地帯を目指して黒崎方面へと歩く。フェンスの向こうはもう八幡製鐵所の構内だ。複雑に絡み合う電線の手前に見える踏切は、構内を走る専用鉄道のもの。



では出会うことがなかった。鉄の生産の現場と鉄道は、今でも密接なのだ。



スペースワールド／旧官営八幡製鐵所の東田第一高炉跡にて、鉄の成り立ちを知る。八幡東区東田 2-3-12。

東田第一高炉跡のそばには、北九州市立の『環境ミュージアム』があつて、ここを見学すると、昭和30、40年代の高度経済成長期に頂点にまで達した公害を、この北九州市の地でどのように克服していったかがよくわかる。

北九州市・洞海湾がヘドロで汚れ、空がスモッグで曇っていた頃、東京や川崎の海や空もそのように汚れ、全国でも四日市ぜんそく、水俣病などの公害病が社会問題になっていた。私が生どもの頃のことだ。しかし、今では空も水もきれいになり、海に魚も棲むようになった。ミュージアムの展示を見ると、北九州の市民が公害と格闘しな

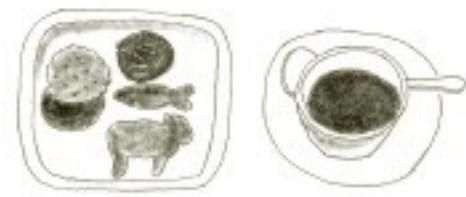
がら、その解決を訴え、企業や行政とともに努力を重ねて、青い海と空を取り戻したことがよくわかる。その歴史を知らない者には、何も無かったかと思われるように、今は海も空も美しく光っている。科学技術の力と人々の強い意志が、それを実現したのだ。

再びスペースワールド駅から鹿児島本線に乗り、次に降りたのは折尾駅。大きなカーブを曲がり、電車が折尾駅のホームに入っていく直前に、薄桃色に塗られた木造の駅舎の姿が目飛び込んでくる。一目見て、それが相当な時代のものであることがわかる。ここは鉄道遺産としても有名な木造駅。大正5年築というから、大正3年築の東京駅とほぼ同じ歴史を持つ建造物だ。

駅の中を探検すると、次々と見所を発見する。鹿児島本線のホームから階段を下りると、ホーム下の通路の壁はレンガ積み。このレンガのトンネル空間は重厚さと風格がありなんとも素敵だ。改札口を出ると、木造の待合ホール。大正時代の風合いが感じられるあたたかな空間だ。駅の外に出て薄桃色

の木造駅舎を眺める。重要文化財である門司港駅を小型にしたみたいでもあり、大正ロマンの香りがする。

駅前に出ると、かつて石炭の水運に使われていた堀川沿いに飲み屋街が続いていて、いい感じだ。鉄道開通以前は、この堀川の運河を五平太舟という運搬船を使って、港のある若松まで石炭を運んでいた。折尾は、その時代から、石炭運搬の拠点として重要な土地

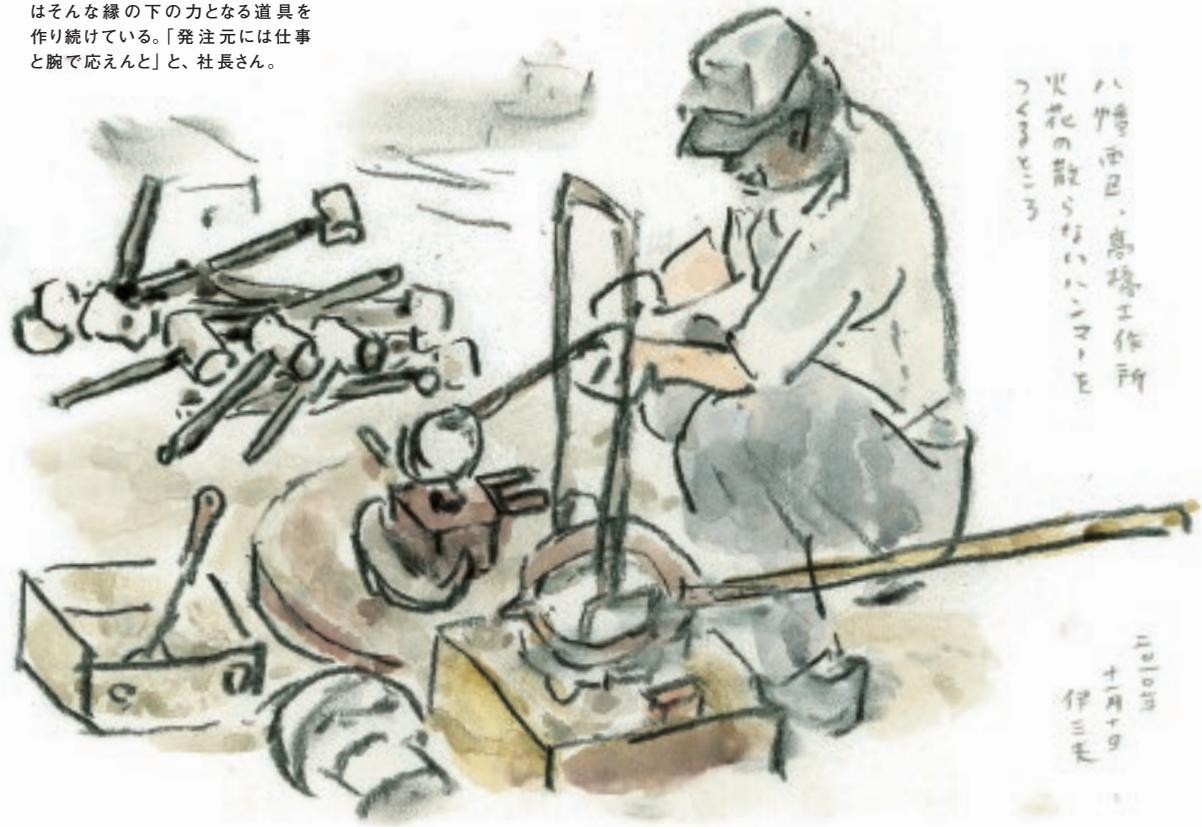


若松／海を眺めながら窓辺で珈琲を。
[Asa café] 若松区本町 1-10-17 上野
海運ビル 306 ☎ 093-771-8700

だったのだ。

折尾駅にはもう一つ気になる場所があった。それは、鹿児島本線下りホームにあった『東筑軒』の店だ。その「か

黒崎／機械を組み立て、完成させるには多くの微細な部品やネジ、そして秀逸な道具が必要。高橋工作所はそんな縁の下の力となる道具を作り続けている。「発注元には仕事と腕で応えんと」と、社長さん。



高橋工作所
火花の散らないハンマー
つくろてころ

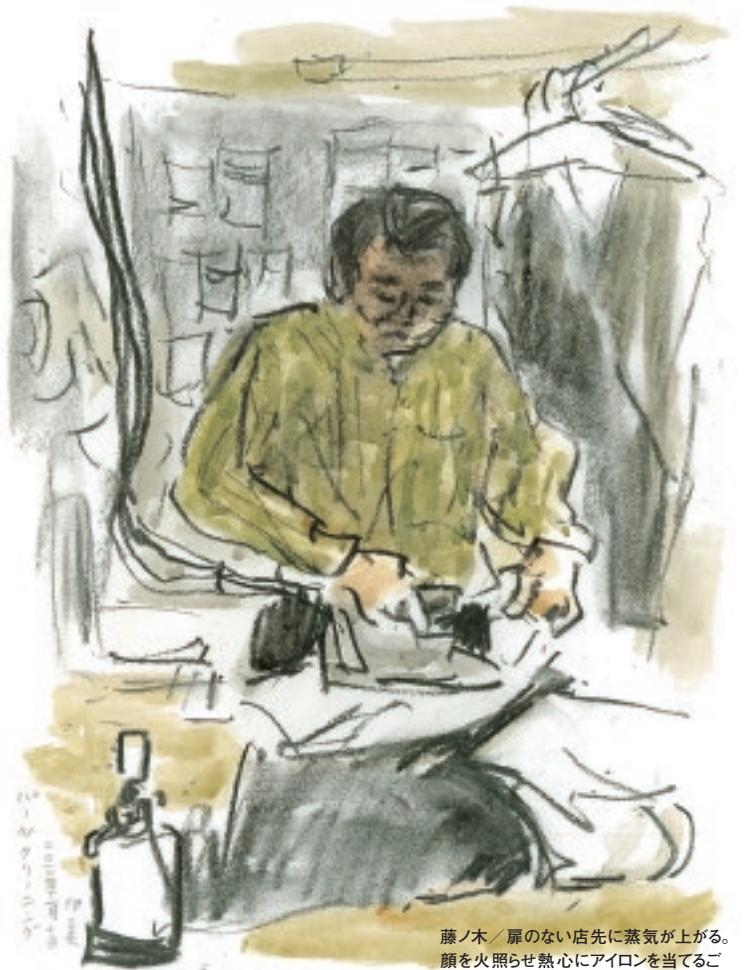
11/10/16
十一月十日
伊三毛

しわ入り うどん そば」ののれんのかかっている店先には、なんとも人を誘い込むような風情が漂っている。東筑軒は駅弁「かしわめし」が有名な店。しかし、のれんをくぐった中は立ち食いスタンドになっていて、お客はみなうどんかそばを食べている。実は今朝も小倉駅8番線ホームで「かしわうどん」を食べた。前夜、このうどんが旨いから朝飯代わりに食べると薦められたのだ。しかし、午後1時という時刻に折尾駅ホーム東筑軒の立ち食い店の前には、今日の2食目も「かしわうどん」を食べるしかない。

今日2杯目の「かしわうどん」は、350円と、朝食べたのと同じ値段だが、麺もつゆも具も違う個性。旅先では、異なる店でその土地の名物を食べ続けるのは、案外有意義なことかもしれないと思った。

うどんを食べて筑豊本線（若松線）の乗り場に行くと、2両編成の車両がディーゼルのエンジン音を響かせている。このあたりは石炭の時代は蒸気機関車が走っていた、その後は電化されずにディーゼル区間となった路線が多いようだ。

同じ折尾駅でも鹿児島本線とは打って変わって、若松線のホームはなんともひなびた感じ。発車まで時間があるのであちこち探検していると、ホームの端で猫の家族がひなたぼっこしているのに出会った。おかあさん猫に子猫数匹。ホーム沿いの建物の床下に棲んでいるらしい。この駅は、木造駅舎、レンガ積み通路に加え、いろいろと和みのある要素を持ち合わせているところがすごい。その一つ一つに素直に



藤ノ木／扉のない店先に蒸気が上がる。顔を火照らせ熱心にアイロンを当てるご主人。魔法のように動くその手にしばし見とれる。『パール クリーニング』若松区今光 1-11-9 ☎ 093-701-3492

感動してしまう。永らくディーゼルエンジンのうなりを上げていた車両が折尾駅を発車する。久しぶりに乗るディーゼル車は、鉄道ではなく巨大自動車のような感じ。しかし、しばらくレールを走るうちに、ガタンゴトンというレール音を感ずるようになり、だんだん鉄道っぽい乗車感になってくる。

2両編成の車両の運転席の後ろには「運転中は話しかけないで下さい。」という表示。これは要するに、運転士さんに話しかける人が多いということ？ まあ、そんなやり取りも目に浮かぶような、のんびりした風情の鉄道なのだ。

終点、若松の駅で降りる。この駅構内にも東筑軒のかしわうどんのスタンドを発見。ここでもさらにうどんを食べるべきなのかと迷うが、さすがにもう食べられない。駅前には妙に広々としている。一昔前、石炭積み出し港として隆盛を極めたこの駅前には、転車台もある巨大な蒸気機関車の基地があったとか。最盛期の昭和15年頃には、若松駅は日本一の貨物取扱量を誇っていた。

それから70数年の歳月がたつと、世の中はまったく変わるといふことか。



八幡／午前11時。ふらりと入って遅い朝食。セット780円『喫茶エース』八幡東区西本町2-8-20

今は「セム1」という石炭用の貨車、9600型の蒸気機関車の保存車両が展示されているくらいしか、往時の名残はない。

その駅前から海のほうへ歩いていくと、途端に視界が開けて洞海湾一望という景色になる。なんていい眺め！本日、洞海湾沿いに鉄道旅行してきた、初めて海を真近に見る。

港の周辺には、若松の全盛期の頃からの建物がいくらか残っている。旧古河鉱業若松ビルは、歴史を感じさせるレンガ造り。上野海運のレトロな建物は内部が吹き抜けになっていて、階段を上って行くとおしゃれなカフェがあ

る。ビルの隣には三菱のスリーダイヤモンドのマークを掲げた古びた倉庫も見つけた。

海に面して建っている小さな木造建築は「旧ごんぞう小屋」。若松港から積み出される石炭は、籠バケツで船まで運ばれ、その作業に従事する仲仕を「ごんぞう」と呼んだ。明治37年から昭和40年まで使われていた、「ごんぞう」の詰所が、今は休憩所として復元されているのだ。全盛期である大正初期にはこの港に3000人いたという「ごんぞう」。

若松の駅前には、地元出身の作家・火野葦平ひのあへいの資料館がある。地元の石炭荷役業「玉井組」の息子として生まれ育った火野葦平は、東京の早稲田大学で文学を学んだが、家業を継ぎ、「ごんぞう」の若親方となった時期がある。火野葦平の文学は、若松の街の日々の労働風景から生まれたものだ。代表作であり映画化もされた『花と龍』では、若松の風景がたびたび描かれている。

港に架かる若戸大橋は、本日の鉄道の旅の途中、鹿児島本線戸畑駅付近からも見えた。ここまで来て、洞海湾を



折尾駅
三〇〇年十月九日
伊三夫

折尾駅にて。鹿児島本線と筑豊本線（若松線）の乗り換えのときには、レンガと木材が交差する通路を通る。ちょっと秘密めいていると感じるのは、旅行者だけだろうか。

ぐるっと回ってきたことを実感する。

洞海湾を跨いで若松と戸畑を結ぶのが、この若戸大橋。自動車用の橋なので、この海を渡りたい人は、渡し船に乗る。戸畑と若松を往復する渡船は、1時間に3、4本あり、ほぼ若戸大橋に沿って海を渡る。乗って数分、あっという間に戸畑に着いて驚く。こちら、戸畑側は新日鐵の巨大工場のある街。これで洞海湾一周を達成したわけだ。工場と海と鉄道、そして「かしわうどん」で、北九州市の工業地帯が丸くつながった。



若松／文豪が生きた証を書斎の机にみる。『火野葦平資料館』若松区本町3-13-1 ☎ 093-751-8880

列車にまかせて。

日田彦山線は、白地に青い線。右うえに、おなじ色あいの新幹線が滑るように遠ざかる。小倉駅には、超特急も各駅列車もとまる。どんな列車に乗ってもいいのは、広い書店で本を選べるように自由なことだった。

西小倉で乗った背広のひとは、文庫本を開いた。お母さんといっしょに乗った男の子は、運転席にくっついて進む線路を待ちかまえる。二両の列車は、日常と冒険を乗せ、スピードをあげていった。

ディーゼルの振動を全身で聞きながら、窓にでこばちをくつつけると、いちよう並木と小学校の壁画が見えた。踏切に待つひとたちが、まぶしそうな顔をしている。昨夜着いたばかりの小倉が、遠くなる。旅のさなかに旅に出

るのは、頼りない心持ちだった。紫川を渡ると列車の速度があがり、線路わきのすすきと蔦紅葉が窓にかぶさる。……あれが、足立山。

うしろのほうでだれかがいい、おおらかな姿に気づく。北九州市の守り神は、不案内でいる背を黙って見送ってくれていた。

線路は、城野から日豊本線とわかれた。分岐では、たびたび曲線を描く。その流れのとおりには、首もくなくと揺れ、列車との息がそろう。

ワンマン列車は、運転席も近い。青色の制服制帽の運転士さんは、白手袋で、ほうぼうを指さし確認する。その手を、男の子が口をあけ見あげている。後方鏡にうつる横顔は若く、清潔な首すじに、緊張が伝わった。



駅の看板をじっくり見る。それぞれの線によってさまざまな書体。かたかも色も。列車と一緒にだ。

いしだ・せん／1968年生まれ。エッセイスト。著書に『踏切趣味』（筑摩書房）、『踏切みやげ』『きんぴらふねふね』（平凡社）、『山のほりおり』（山と溪谷社）など。

駅で、ここまですり内となつてい。ホームわきの柿の木から、鳥のわけまを失敬してかじる。枯葉の積もる地面からは、水仙の葉がすつと立つ。羽の破れた黄いろい蝶が、柿の香りに誘われてきた。季節は暦どおりには変わらない。行き先を定めてばかりの日々で忘れていた、あいまぜの景色に

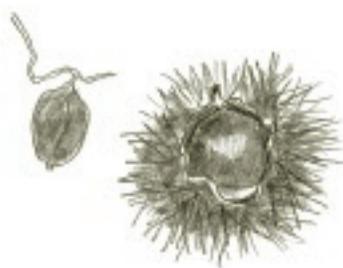
線路にそつて歩くと、山が月のようについてくる。遠くちかくにかこまれ、じつと見られる。お寺の門前で立ちどまると、足さずとも引かずともよい生となりと書いてある。百まで生きたらそうなるかと思ひながら、線路を渡ると、道のおくに大山祇神社がある。境内にそびえる天然記念物の大いちょうは、県内最大級の木で、台風の痛手からも立ち直り、大粒の実をならせた。さつきの蝶も、このいちちょうも、足さずも引かずもい生だった。踏切の音がしてふりかえると、栗林のむこうをしろい短い列車が過ぎた。

戻る道に、古い道しるべがあった。
従是小倉迄三里貳拾四町
従是大里迄四里貳拾七町

従是採銅所迄壹拾四町

時間どおりの列車にあたりまえに乗った足と、ひたひたと歩きつづけた昔のひとの足音が出会う。

小倉行きが来て、ひとつとなりの石原町にもどる。踏切を渡ると、刈田に百日草が咲いている。冬空と平尾台をひとりじめにかかえて進み、ひとつ小道にはいつてみる。



呼野／参道にて。福々しい栗があちこちに落ちていた。からすうりも、いよいよ色鮮やか。

なだらかな勾配に建つ家いへは、迷路のようだった。立ちどまり、耳をとがらせるとかかんかと聞こえ、ガタンゴトン。安心して半分迷子の心地にもどる。日常は、あの列車にあずけてある。ようやく、旅のからだになつた。こんなにちは。帰りたくのひととあ

花が咲いていて、名まえを教わった。駅にもどると、しかくい列車の顔がゆつくり近づいてくる。駅長さんが、ホームの鏡で列車の進入を確かめる。まねをして見ていると、山をしたがえた列車はしだいにふくらみ、鏡に吸い込まれ、消えた。ほんとうの列車がホームにとまる。鏡には、線路と山と夕暮れが残されていた。

志井公園からは、高校生がたくさん乗ってきた。六人組の女の子たちは、四人がけの座席に五人がぎゅうぎゅうに詰めた。わたしはいいわ。ひとり離れた女の子が、むかひに座る。五人はにぎやかに、ボーイフレンドの話をしている。そつけない声と狸寝入りは、おなじ年ごろ、おなじ覚えがあった。

城野におりると、足立山をさがした。見つけて、からだの磁石がさだまる。列車に乗って、戻ってくる。くりかえすたび、訪れた町は帰る町になつていく。線路ぞいから架道橋をくぐる

と、頭のうえに線路ごしの空が見えた。自転車の男の子に追いぬかれ、ついていくと、原っぱに出た。男の子は、すすきと猫じやらしの波に飲まれたよ



「ぼくは、後方確認のためのミラーに映る、切り取られた山の景色がいちばんきれいとおもっています。絵のことはわからんけどね（笑）」、と石原町駅の國田駅長。

うにいない。あの子には、しっぱがあつたかもしれない。きつねの子に会つてもおかしくないほどの銀の波だった。ふりむく土手には線路が走り、踏切を渡るひとが見えた。線路のおくには沈みかけたきょうの山がある。猫じやらしの原にもどると、包まれ安心しきつて、こおろぎが鳴いていた。

ふつかめは、泳ぎを覚えた子どものように、すこし遠くまで出かけた。行つてきます。足立山をふりかえる。

呼野をすぎ、金辺峠を抜ける。トンネルの闇は山の深さそのもので、列車とひとは、ともに息をつめて潜り、けのびのように明るさを受けとめる。日田彦山線は、トンネルを掘りすすめたひとの喜びをそのまま見せてくれた。田川後藤寺で黄いろい一両のディーゼル列車に乗り換えると、すずきをかきわけ、田畑から高木のぼった。

宝珠山駅のホームには、ななめに県境の白線がひいてあつた。福岡県と大分県をまたぐ。またいまま線路にならぶ。線路はむこうもこちらもないまま、はるばる続いていく。たがいの光

と、小倉行きドアが閉まるのが見えた。つぎの列車を待とうかバスかと迷うと、自転車やバイクがしきりに抜ける道がある。ついていくと、モノレールの企救丘駅につきあつた。野に遊んだ一日、モノレールで、なめらかにもどつていく景色は、未来の町のように見えた。広く浮かぶ眺めは、山の目線。山は毎日こういうふう



酒蔵 小倉南区 130年守られてきた
『無法松酒造』の杉玉。石原町
大字新道寺 310 ☎ 093-451-0002

町やひとを見ているのだった。

列車には、おとこの帰りに乗りあわせた男の子がいる。小倉駅七時発の車内は若さでいっぱいになった。

おむすびを食べている女の子、熟睡の男の子、ひとつのイヤホンを片方ずつ耳に入れてる仲良し。いろいろな制服の学生さんたちは、志井公園の駅

を訪ねあうために、列車は走つていく。窓からながめた山すそがある。日なたの山肌、雲の影が渡つていく。柵田に足をとめ、耳を包む風はきのうより冷たい。きょうは誰とも話していない。それでも、きのう覚えた黄花コ



ディーゼル車内。座席は固定で向かい合わせ。天井には、小型の扇風機。心地よい風が吹く。

スモスや、石垣のすきまから咲く千日紅を見る。花だつて、咲くうちだれにも会わない日があると思える。きのうの旅を頼みにして、また歩いた。

列車に乗りこむなり、弁当を食べた。食べつつ、トンネルの闇を浴びる。馬に乗つて走るような風、牛の群れのようならなり。かりたてる地響きにくるまれたまま彦山駅に着くと、先発の列車が倒木と衝突して停止している。

でおりていった。日田彦山線の終点は夜明駅。とはいももの、朝日はすつかりのぼつている。

市内をはなれ、金辺峠のトンネルをくぐるあたりからうとうとして、目覚めると、となりのおばさんが編みものをしていた。夜明でいっしょに降りたおばあさんは、病院に行くのにこの列車がいちばん便利という。

温泉の看板があり、トラックをとめているご夫婦にたずねた。奥さんに、大橋の薬湯なら近いと教わる。

……あの赤い橋をわたつて、すぐ。声をそろえるふたりが振り返るほうに、りっぱな橋が見えた。

筑後川にかかる夜明橋から、杉山の整列や川ぞいの紅葉も一望する。鳥にじつとみられ、おおきなあくびを返す。

夜明薬湯温泉は、地下一五〇〇メートルから湯が噴き出している。ナトリウム・炭酸水素塩・塩化物泉は、つるつるになる湯だった。演歌をききながら長湯をして、広い座敷でビールを飲む。おかずを持ち寄つてくつろぐ常連さんたちの声は、子どものころの正月のように眠気をさそう。座布団を枕に

……報告があるまで、お待ちください。もうすこしかかると思いますが、すみません。車掌さんは、ひとりひとり伝えてまわる。

動きはじめた線路には、旗を持ち、作業をするひとたちがいた。時間どおりはあたりまえではないと、よくよくわかる。列車は、プーと警笛をあげ、徐行で通過すると、ゆっくり本腰の速度をとりもどしていった。

呼野からは、らかな肩になった。きのうのお寺を掃除するひと、渡った踏切、見あげた木に迎えられ、石原町には、駅長さんが待つていてくださる。

志井のホームでは、頭のなかを竹の風で満たした。ふつかの道みちをポケットにおさめる。

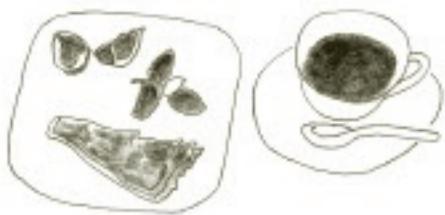
ふたつの駅のあいだは三分とあつた。道は線路とずいぶん離れて、広い畑をはさむ。鉄道の底力を思い知る。葉を巻きはじめたキャベツや、浅い色のやわらかそうな葉っぱ。畑で遊ぶすずめをながめ、昔のひとが手本とこつこつ進むと、小倉行きのバスに抜かれる。

道のさきには、ビルやマンションが増える。志井公園の踏切までくる

またばつくりと寝た。起きると、またつかり、深くかさなる山の木を見た。

昼に、夜明を出る。暖かな列車から、また山を見る。おむすび、おっぱい、中折れ帽、まんじゅう、UFOの基地さまざま山うえ、雲はシクラメンのようにやわらかく咲いている。

英彦山は、どんな山かな。昨晚、小倉の店の女将さんに、その列車は英彦



地産野菜を使ったプレートランチも人気。『Bienvenue』小倉南区志井
684-3 ☎ 093-451-1916

山神宮に行くでしょうと教わつた。おとうふのおいしいところとも聞いた。

彦山駅から神宮の鳥居のまえまでは、町のバスがあつた。長い遠い石段をのぼりはじめると、紅葉は今週からとい



呼野駅ホームのベンチから、探石場の山を眺める。切り取られた石は麓へ。遠くで唸るブルドーザーが、ミニカーほどの大きさに見えた。山は大きくて果てしない。

うところだった。足が重たくなると、茶店のおばさんが、もうすぐですよと励ましてくれた。もみじを拾い、ノートを開くと、きのう拾ったもみじがこぼれる。

石段のとちゅうには、杉田久女の句碑があった。

（たぐ） 祈りて山ほととぎすほしいま、

杉田久女は、小倉に在住していたころ、たびたび英彦山に長逗留し、たくさん句を作ったと記してあった。

社殿にのぼりつきお参りをすると、バスの時間がせまる。とうふをあきらめ、おりていくと、杖をついてのぼってきたおばあさんが、きつかねえという。もうすぐですよ、茶店もありますはずむ息どうしで、すれちがう。

バスは、彦山駅となりの豊前栲田駅、そのつぎの歓遊舎ひこさん駅にもまわる。彦山駅では、女のひとたちが駆けこんできた。わあ、よかった、一時間さみしい思いをしないですんだ。にぎやかに、よろこぶ。

みなさんは、英彦山神宮にお参りをしていたら、列車を逃してしまった。そこで、バスで道の駅『歓遊舎ひこさん』

ん』（*）にむかい、次の列車を待つことにしたという。

ああ、よかったねえ。ああ、おもしろかった。ああ、走ってぬくもった。珍道中やねえ。でもこういうのが、思い出にのこるねえ。もみじ見ごろのバスのなか、道みちいいことは、すべてこのとおりと聞いていた。

道の駅には、おとといの千日紅、窓から見た柚やりんご、志井の畑でおいしそうだったのは、かつお菜とわかる。山の水をくんで飲む。三日のうちに見たものが、みんなあった。

ホームのむかいはりんご畑がある。道の駅で買ったりんごは、このものかもしれない。かじって列車を待っていると、パトカーのサイレンが鳴り、あちこちの家の犬が、いっせいに鳴く。歌うように伸ばす声、なんだなんだと騒ぐ犬につられて鳥も鳴く。音が遠のくと、踏切がかんかんと鳴った。こんどは一匹も吠えない。踏切の音はおなじみで、知らんふりとなっていた。定刻が近づき、さっきの五人組さんに再会した。小倉まで帰るひと、とちゅうで降りるひと、沿線に住むお友だち

どうしは、きょうの英彦山詣でを楽しみにしていた。

うれしそうな姿に、久女の喜びをかさねる。なよりの旅の縁だった。

南小倉で降り、線路とならんで歩くと、JRの工場があった。とつぷり暮れたごはんどきなのに、かまぼこ型の建物は、こうこうと明るい。こんにちも無事と報告するとありがたく、拝みたいような気持ちになった。



早朝6時から暖簾が出ている『めん処たけや』は麺が無くなったら閉店。小倉南区八重洲町10-9

乗り納めは、食べ納め。きのうとおなじ車内に、きのうのひとはいない。男のひとがふたり、話しをしていた。出勤まえに、うどんを食べる。週に三日は通っている。あの店を知って、うどんは朝食食べるものになったとほめち

ぎる。店の名に耳をすませ、降りた駅を覚えておいたのだった。

石田駅でタクシーのおじさんにたずねると、食べたことはないけど、場所はわかると乗せてくれた。

駐車場の一角にある店は、すでにのれんがはためいていた。トラックをとめ、男の人がはいつていく。こざつぱりした店を切り盛りするのは若いひとたちで、厨房でうどんを打っている。

となりのひとのまねをして、肉うどんに柚子胡椒をいれる。こしのあるうどんは、早起きのかいも、はるばる来るかいもある。きりりとまじめなおつゆと、やわらかい肉で腹がぬくまる。

またあてずっぽうに歩くと、鳥居があり、旅のお礼を申し上げる。

駅までもどる道では、タクシーのおじさんの教えてくれた日曜朝市の場所と、石窯のパンやさんも覚えた。つぎは日曜日、たけやのうどんから出発して朝市を見ると決めた。

駅につくと、さっきのタクシーのおじさんに、うどんおいしかったと聞かれた。ぜひ行ってください。胸をはってすすめた。

うららうらと乗り歩き。

おかど・きぬえ／編集者、1955年埼玉県生まれ。80年マガジンハウスに入社。「週刊平凡」「オリブ」などの編集に携わる。2003年、暮らしをテーマにした隔月刊誌「クワネル」の創刊と共に編集長に。10年退社。趣味は温泉めぐり。

電車の発車まであと2分。さきほどまで絵筆を握っていた牧野伊三夫さんは、体格のいい、落ち着いた物腰のめがね紳士だ。その人が赤い布バッグを肩にかけ、スケッチブックと絵の具箱を持って、駅の階段を猛然と駆けあがっている。階段をいっきよに2段登る。私は足がもつれて、息がきれて、牧野さんの全力疾走についていけない。やっと改札前に到着。切符を買おうとするのだが、「気が動転して」牧野さんも私も南小倉まで220円の切符が思うように買えない。切符を手にようやく改札から列車が待つホームへ駆けおけると、「まもなく発車します。ドアが閉まりますからご注意ください」のアナウンスがあり、左右からドアが閉じられようとしたそのとき「あ



朽網／手作り惣菜弁当を買ってお昼ご飯。『リエゾンマート』小倉南区朽網東 1-1-24 ☎ 093-473-6266

あっ！」と思わず声を出した牧野さんの右肘が、ドアに触れるか否かの瞬間に、なぜかドアは開いた。そのすきに私たちは下曽根発の電車に滑り込めたのである。がたごたん、がたん。がたごたん、がたん。ししゅーっ。ふうーっ。ようやく乗れた。それにしてもドアはどうして開いたのだろう？

「電車のなかにホームを映すモニ

ターがあって、あなたたちが映ったので、車掌が閉めかけていたドアを開けたんですよ」と南小倉の駅員さんが答えてくれた。

センサーではなく、人力、それも車掌さんの好意の人力で乗れた電車だった。その日、同じ駅で女子高校生ふたりが「あっ、電車、まだおる。あーっ、待って待って！」と叫ぶ同じような場面を見ていた。のどかさうに見える駅でも、ホームのささやかな攻防は繰り返されているのだなあ。下曽根から南小倉までの電車に間に合った私たちの、距離にして81キロ、わずか10分の旅のできごとだった。

日豊本線は、小倉駅から大分、延岡、宮崎を経て、鹿児島まで走る九州の幹線である。走行距離は約470キロ

で、北九州市では、小倉駅をはじめとして南小倉や下曽根を経て、朽網までわずか15キロ、7駅が日豊本線にあたる。「せんろはつづくよ」どこまでも「せ」にも満たない距離である。市内の各駅の周辺は、おもに都市部で働く人々のベッドタウンとして、住宅街が形成されているようだ。これら7つの駅に加えて、門司港から門司までの鹿児島本線の3つの駅に降り立つのが今回の旅の目的だ。

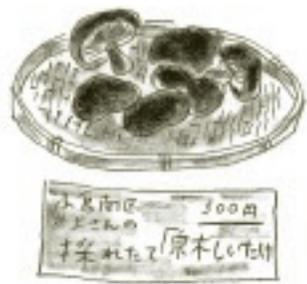
陽をあびて歩く——朽網にて



下曽根／駅構内にミシンの音。仕立てどリフォームで15年。『ファッション工房かねとし』☎ 093-472-4721

朽網駅に降りたのは、午前10時すぎだった。駅前の『リエゾンマート』というスーパーマーケットを過ぎて、住

宅街へ入る手前に大きな桜の古木がある。その陰に隠れるようにして小さな平屋が建っている。濡れた地べたはコンクリートで、8畳くらいの空間だ。女性がふたり、窓際で手を動かしている。ひとりは魚を手でさばき、もうひとりは小鍋で湯引きをしている。部屋のまんなかに置かれたショーケースには、イワシと旬のウマヅラがばらばらと並んでいるだけだ……。もしかしてここはお店？ そして魚屋さん？ 今年80歳になったという大輪千恵子さんは、ゴム長にエプロン姿で、きれいに化粧をしている。「魚というのは値段ほどの値段がするものだ」と語ると、今日も午前4時起きをして、この店にやってきた。仕入れた魚を、お得意さんからの電話で注文を受け、午前中でほとんど売り切ってしまうのだという。店ももう40年続いているが、夫を亡くして、嫁の須佐子さんが店を手伝ってくれているようになって17年になる。「やめないうで」というお客さんの声が続けられるのだという。「今日なにかあるのー」とやってくるのも知り合えばか



南小倉／木町市場の新風。地産野菜が並ぶ。『ブースターフーズ』小倉北区木町 4-3-32 ☎ 093-571-1831

静かな街の通りにはひとりとしていない。どの家の庭もよく手入れされている。洗濯ものがもの干しに大の字になっ

なって、陽をいっぱいに受けている。下着の類は見えにくいところに、そっと干されている。平和だ。歩いていると、一軒の家の庭が目についた。生け垣はこぼれんばかりの緑（ワイヤープランツというのだそうだ）でおおわれ、庭はスキヤフジバカマがなにげなく配されている。白いバラや常緑のクレマチス、紫色のサルビア……ここは緑

と白と紫だけでできている、しんとして美しい野原のようだ。

「花が終わったのを500円で買ってきたんよう。それを土植えしたらこんなに咲くようになって」と庭の主は、緑のバラをさして、ちょっと誇らしそうに教えてくれた。この庭は「北の庭」で、家の南側の庭はまったく別の植栽なのだという。北側であっても手のかけ方や植物の選び方で、緑は輝き、その人らしい世界を作りあげることができるとだ。な。「みどりのゆび」をもつ人はどこの街にもいるのだ。な。主は雑草をぬきながら、にこやかに手についた泥をはいた。

ただ歩く。坂があれば登ってみる。登りきった高台に、『市立朽網小学校』があった。土の校庭には、見渡す限り空が広がる。180度空を眺められる。明治5年に開校したというこの小学校は、日豊ニュータウン造成時には、1000名を超える生徒がいたが、いまは350名ほどだ。校門のすぐそばのついでに「玉琢かざれば器をなさず」などの「名句名言」が書かれた紙を、先生がちょうど張り出して



毎朝9時開店。売り切れ次第、お昼前には店じまい。近所の人々が足繁く通う理由は、安さと新鮮さ。何よりここが、楽しい社交場だから。『大輪鮮魚店』小倉南区朽網西6-16-8

いた。この学校には「音読タイム」というのがあって、これらの文言を生徒たちは暗記するのだという。小学生たちの声が校舎にこだまするのが聞こえるようだ。

それにしても朽網というのは、どこからとった名前なのか。1900年も前、『古事記』に記される（日本武尊の父とされる）景行天皇が土蜘蛛退治をしたときに、その蜘蛛を捕らえるのに使った網が朽ちたという由来だそう。土地の人なら当然知っていることなのだろう。でも、「昔はね、学校の裏手まで波がきていたそうです」と教えてくれた先生の言葉を聞いて、周防灘に続く曾根新田という埋め立て地から、この高台の裏手まで海だったことを想像して、はじめて私には「朽網」という名前がしっくりきた。

干潟と醤油——下曾根にて

下曾根駅は、駅の改札所の前に平日は小さなお店がでる。その日とれた農産物を中心に乾物などが並んでいる。電車に乗って働いて帰ってきた人々に

はとても便利そう。この店にも名前も看板もない。

干潟があると聞いて、駅から海に向かう。出かけた11時ころはこの日いちばん潮が引いたときだという。干潟というのだから、「どこまでも平らな、



門司港／開業50年。門司港唯一の銭湯でしばし休息を。「ぎく湯」門司区清見1-6-17 ☎093-321-6511

なーんにもない」という風景なのだろうと思っていたが、ゴム長をぐしゅぐしゅと言わせながら、20人近くの男衆が竹で大きな筏を組んでいた。次の冬に収穫する「豊前海一粒かき」の種を植え付ける（種の植え付けは4月）ための筏だそう。漁港近くの魚市場で、3月いっぱいまでかきが焼いて食べられる「かき小屋」ができると組合のおじさんが教えてくれた。

下曾根には、もうひとつ見ておきた

いところがあつた。創業以来100年以上同じ製法で醤油を造り続けているという『松中醤油』だ。蒸した大豆と炒った小麦に種麴をまぜて麴を作り、塩水を加えて、約2年寝かせて、発酵、熟成を待つ。このもろみを搾って本醸造となるが、アミノ酸液を加えるのが九州独自だ。短期間でもろみを搾るのがふつうになっている醤油造りと異なる時間をかけた造り方。一滴の醤油が2年もかけてできている。味見をさせてもらったもろみは、うまみとあまみがあわさったふくよかな味がした。鼻すじの通った社長の松中新治さんは、3代目の48歳だが、東京農大を卒業して下曾根に戻って26年。醤油のことを、何でも何度でも教えてくれた。先生のようにていねいにわかりやすく。手で髪の毛をわけるのがくせで、どうしても若く見られるという。「早く50歳にならないかなって思ってます」。ゆったりと流れる時間が、人も醤油も味わい深いものにしていくのだろう。な。

醤油蔵を出て、駅に戻り、また電車に乗る。暗い冷気のなかで、もろみが

ひっそり眠ったことを思い出しながら、窓に目をやれば夕暮れだった。夕方に電車に乗るのが好きだ。車窓から夕闇に家々の明かりがぼつんぼつんと灯り始めるのを見ると、おお、ここに変わらぬ日々を過ごそうとしている人たちがいるのだなあ、と思う。旅は非日常などというが、私には見知らぬ街を歩いていると、日常の続きであり、発見もそこからだと思ってしまう。

なつかしき昭和——門司港にて

宿を取ったのは『むつみ関門荘』という旅館だ。不動坂という小さな路地のなかほどにある。客が5組も入れれば満杯というこぶりな旅館で、玄関のガラス戸を開けると、女将の土谷清子さんが笑顔で迎えてくれた。部屋は2階木の引き戸を開けて、ふすまを開ける床の間にテレビ、布カバーつきの鏡台、衣桁、用意された籐のかごのなかには名入りの手ぬぐいと歯ブラシ、浴衣と羽織がきちんと折り畳まれている。昭和だなあ、とつぶやきたくなるようななつかしさだ。お茶を運んでくれた女

将の茶請けは、手製のスイートポテトだった。宿は取っても夕飯は外で、というお客さんも多いそうだが、「家庭のようなごはんを食べたい」と言ったら、女将は少しうれしそうにうなずいた。門司港に鉄道が開通した明治24年ころから、駅の周辺は旅館街だったとい



門司港／小道の先にある昭和の香り。
『むつみ関門荘』門司区清滝 4-1-13
☎ 093-321-1496

う。九州の玄関口である門司には、国鉄や商社、新聞社などが集まって栄え、接待客も多かったと聞く（そばには『三宜楼』という料亭の建物がいまなお残っている）。むつみ関門荘を始めたのは昭和40年。当時旅館は60軒以上あったが、いまは10軒にも満たない。すでになくなってしまうが、旅館『藤

乃屋』は作家で写真家の藤原新也さんの実家だそうだ。

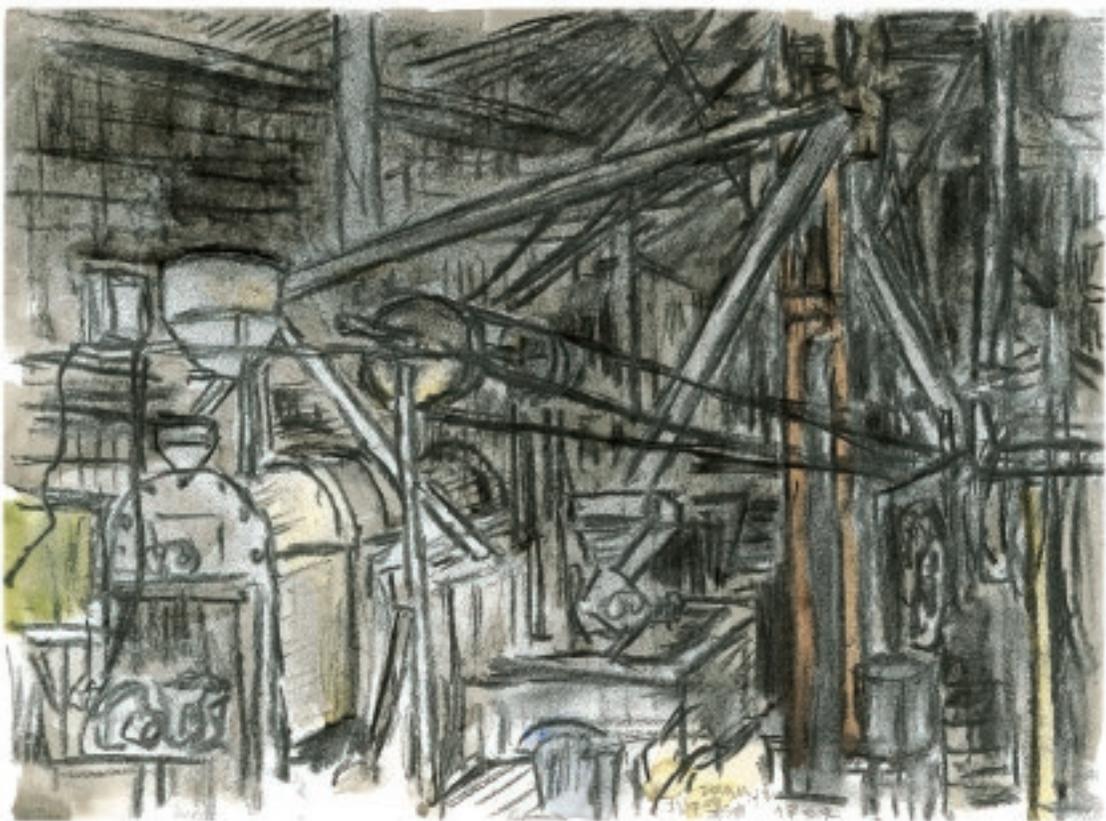
かつては料亭だったというこの旅館は、始めて45年になるという。いまは女将とご主人の義一さんのふたりだけで切り盛りしている。

「腹八分目がちょうどいいっていうでしょう。ゆっくりしてもらうには、あんまり忙しくないほうが、おもてなしができるというものです」。かわいいの唐揚げやなすとしいたけの煮物、鶏のレバー煮、なすのはさみ揚げ、ポテトサラダと家で食べるような夕飯をいただきながら、話を聞く。

「一生懸命やつとれば、自然にいいお客さんに恵まれる。そう思ってやってきました」。ふたりの笑顔がいい旅館だということを証明している。水は



門司／抹茶たっぷりソフトクリーム
(250円)は柳町商店街にて。『お茶の星野園』☎ 093-371-1177



住宅街。風に乗って漂ってくる芳ばしい香りが。醤油蔵を見つけた。ゆっくり寝かせて作るのは、少し甘めの郷土の味。『松中醤油』小倉南区中曾根東 1-6-1 ☎ 093-471-7010

おいしいと聞くところまで汲みにゆき、浴衣や寝具を家で洗濯し、のりをきかせてアイロンをかける。米や梅干しやらっきょうの漬け物は実家の手作りです。宿の食事のほとんどは手製だ。どこもきれいに掃除がゆき届いて、お風呂に入れば脱衣所には、まだ11月の半ばというのに、ストーブに火がつけられていた。

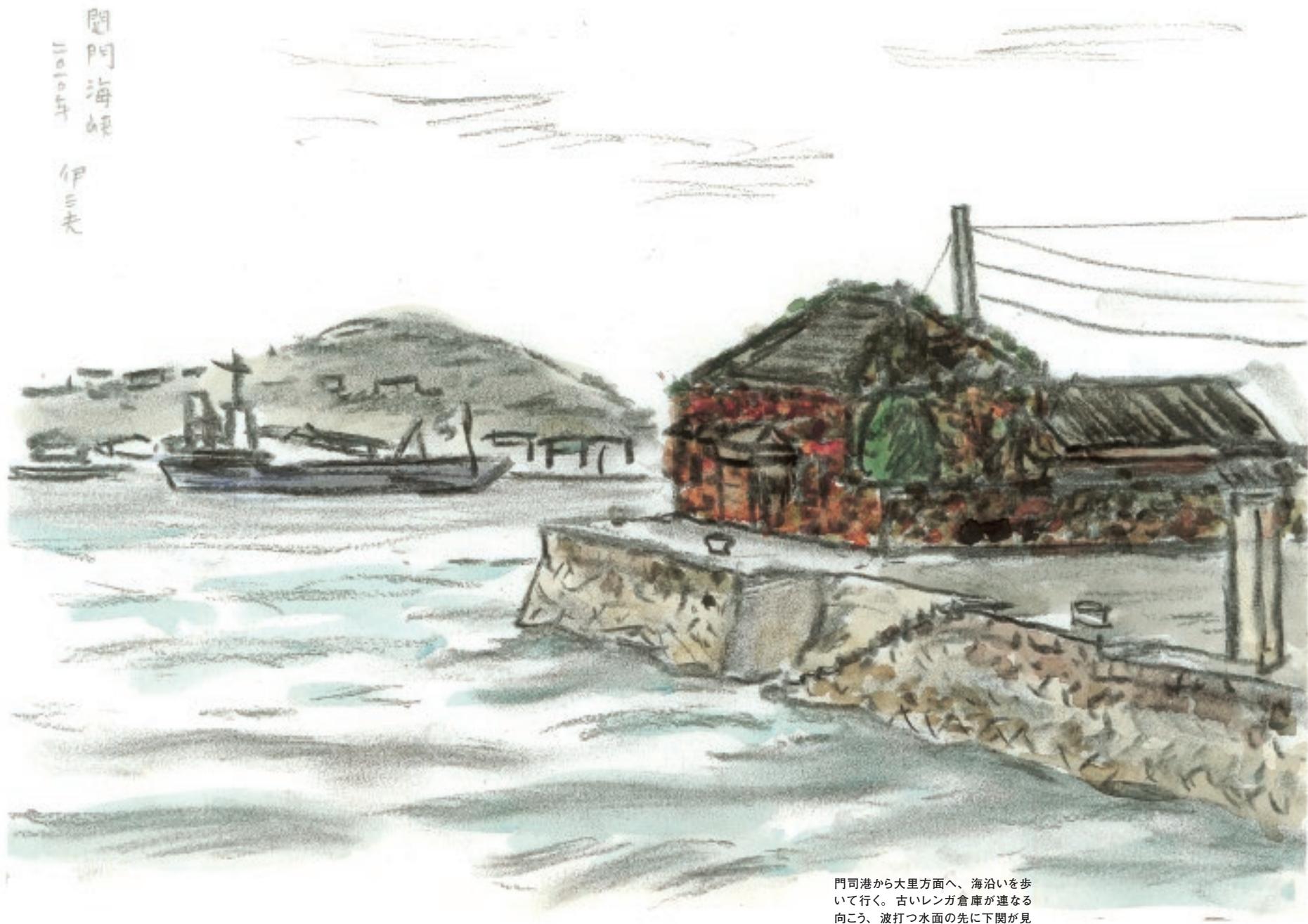
今晚の客は私ひとり。静かな夜になった。夜半に大きな雷があり、雨が強く屋根をたたく音がする。外の緑が障子にうつって揺れている。朝になれば、どこかで猫がえさをほしがって鳴いている。坂を掃く竹ぼうきを使う音もする。夜から朝へ。自然が近しく感じられる。こんな気配も久しく忘れていたような気がした。

「米と漬け物が自慢」と言う清子さんの作る朝食は、ねぎとおかかのかったおきゅうと（福岡でよく食べられる食感のいい海藻で作る食べもの）にめんたいこ、昆布の佃煮、白いんげん豆の煮物、かぼちゃとたけのこの煮物、ほうれん草のおひたし、そしてきゅうり、だいこん、人参の漬け物に昆布

が添えられていた。少し古漬けにした漬け物はいっそう家庭の味がした。土曜日には団体のお客があるとかで、義一さんは4時起きで、市場に魚の買い出しにゆき、「料理長」の清子さんは7時ころに野菜類の買い出しに出かけて行った。「もてなし」の準備をふたりのペースで粛々と進める。家が仕事場で、日常そのものが仕事だ。夫婦げんかをしたらどうするのですか？と聞いたら、義一さんは「お客さんが仲裁してくれるようなものです」と笑った。いつまでも長居をしたくなる旅館だったなあ。

はだかで眺める——門司にて
旅館を出て、関門海峡を眺めようと海沿いを歩く。中国から飛んでくるといふ黄砂が、この日はことのほか多くて（春と秋にやってくるのが多いという）、晴れなのかよりもりなのかわからぬ空は鈍色だ。海の色は青ではなく、深い緑に近い。「もじ楽の湯」でひと風呂あびることにする。はだかで眺める小倉の街や関門海峡も気持ちのいいものだ。露天風呂には「はっぱさん、虫さんもお風呂に入りがつていきます。おじゃまでしたら、出してね」

というかわいい張り紙があった。食事処にあったのぼり旗の「ひつまぶし」を、何度も「ひつまぶし」と読んでしまふ私だった。
電車に乗ったり、降りたり、歩いたりして、人に出会う。どの人もふだんの笑顔がおだやかだったなあ。心がけのよさが顔に出ている。降り立ったどの駅にも、改札近くに花や緑の鉢植えが並べられていた。住んでいる人たちが気持ちよく送り出し、迎えようとしている小さな気遣い。レールの上にも、この慎ましい心がけが連なっているのだからなあ。



門司港から大里方面へ、海沿いを歩いて行く。古いレンガ倉庫が連なる向こう、波打つ水面の先に下関が見えた。巨大な貨物船がずんずん潮をかき分け進んでいく。

流れてであうは、ちくてつ々の友。



車掌さんの立ち位置は、後部車両の小さなボックス席。両替、アナウンス、合間に車内の換気やブラインドの上げ下げをする。気遣いのいる大変な仕事と感心。

遠賀川が、こんなに果てしない、雄大な流れだとは知らなかった。季節は晩秋、風のない小春日和。河川敷には、すすきが穂を広げて茂っている。足もとの草は、まだまだきれいな緑色をしていた。腕時計を見ると、午前10時30分。北九州市を越境して、筑豊電気鉄道の終点・筑豊直方に降り立っていた。ここは直方市になる。

今朝、小倉からJR鹿兒島本線に乗り、黒崎駅へ到着したのが9時43分。駅ビルのエスカレーターを下り、バス停横の小さな電停、始発駅である黒崎駅前から車両に乗り込んだ。

「ちくてつ」は私鉄だ。もともと、北部九州に点在する大小の産炭地を結ぶ目的で作られた鉄道。JR黒崎駅と直結していて通勤にも便利のため、八幡製鐵所に勤める人も多く利用した。

沿線は住宅街と商店街が主だから、どこことなくのんびりとしている。まして、通勤通学のラッシュが終わった車内は、自分もふくめ、時間に頼着のない乗客がぼかんと座っており、電車の揺れは子守唄だった。

電車に乗ること、電停に着いたらたまたま降りてみる以外は、まったく目的のない旅だから、とりあえず終点に向かって旅情を愉しみながら一日の算段をつけようとした。でも、もくろみはずれて、30分ほどで旅が終わった。16キロの道のりだった。乗ってきた電車は、5分後、新しい



木屋瀬 / 甘く優しい風味。1kg 550円。「本田こうじや」八幡西区木屋瀬 3-12-19 ☎093-617-1143

乗客を乗せて終着駅を再び出発した。都心へ取って返すその電車を追いかけられるように、次の電車がホームにすべり込む。この、まめまめしいダイヤのおかげで21の電停で15分以上電車を待つことがない。ちくてつは生活の足。乗客はのんびりしていても電車は働きものなのだ。

遠賀川の高架を渡って去って行く車両を見送ってから、線路を背にして川沿いの道を歩く。お供の道路地図で確かめると、ここから2本目の中島橋を対岸に渡れば北九州市に戻る事ができる（戻らねばならぬ）。その先に、筑豊直方から3つ目の電停・木屋瀬があるはずだ。川を右に見ながら、ほとりの一本道を進む。河川敷は採草地なのかもしれない。雑草が人工的に刈られた後だった。視界が開けたおかげで水を近くに感じる事ができる。空には雲がぼつんとあった。前方からジョギングの男性がやって来る。イヤフォンで音楽を聴きながら走っているからか、大音量で「おはようございますっ」とあいさつされた。こちらは間抜けな顔をしていたはずだ。朝から誰とも口をきいていなかったたので声がでなかった。2人とすれ違った。次はこちらからあいさつをした。菜の花大橋をやり過ぎし、木屋瀬に渡る中島橋が見えた。ここまで40分。だが、間もなく道が途切れた。立ちつくしていると、警察犬訓練所のおじさんが心配そうにこちらを見ていた。行くか戻るか。迂回路し

かないならば、川沿いを戻ればいい。まっすぐな道でさびしい——。山頭火の気持ちは慮れない。まだ陽も高いし、お腹もすいていない。今度は左に川を見る。遠くに山が連なっている。金剛山、福知山……、ひととき丸い形のお山は、雲取山というお相撲さんのような名前だった。

遠賀野から木屋瀬へひと駅乗車。電停横の『ヒカリパン』でクロワッサンサンドを買って、長崎街道の宿場町の



木屋瀬／ふたくちでバクリ。たまごケーキ63円。『ヒカリパン』八幡西区木屋瀬5-5-6 ☎093-618-0981

風情が残る街並みの中で食べた。糍店では麦味噌の仕込みをしていて、蒸した小麦を木箱に詰めて、室に入れるのを見ることができた。室の中はとても暖かくて、甘くてほろ苦いような、生きていく糍菌の香りがした。買わずに

はいられなかった。味噌2キロのおみやげはさすがに重い、大切な我が子を背負って歩く気持ちになってやり過ぎす。途中、須賀神社が祀られてあって、境内に射す光があまりにも気持ちよかったので、階段に座ったまま少しとうとした。

晩秋の午後は日没まで駆け足だ。西山から路地を歩いてひと山越えて、三ヶ森に辿り着いたころは、買い物客もまばらな夕暮れ時。種苗店で、小倉の屋台のおでん屋で必ず注文する「大葉春菊」の種を見つけた。たっぷり収穫して思う存分おでんに入れているところを想像して、にやりとして1袋買う。

黒崎駅前に戻ってきたのは17時30分を過ぎたころ。電停にはすでに家路への行列ができていて、学生もサラリーマンもOLさんも、すました表情で並んでいた。目的があつてでかけた人の迷いのない顔。こちらは一日中ぼんやりしたままだ。でも、迷うのはたのしい。今日歩いて知った。

翌日は、ずっと電車に乗り続けて、街を往復したかった。ちくちくのベテ

ラン運転手、小野英二さんを楠橋にある電車営業所へ訪ねる。

ちくちつ車両には、運転士ともう1人、車掌が必ず乗っている。2人一組となつて一日の勤務である5往復の乗務を途中で休憩を挟みながらこなす。



三ヶ森／見目美しく、実直な一杯。520円。『らーめん工房龍』八幡西区三ヶ森2-3-28 ☎093-612-8868

「点灯、発車」。小野さんが呼称する。「今日は、筑豊電鉄をご利用いただき……」と、車掌の伊藤圭さんが続く。

乗車賃は距離ではなく区間制。電光掲示板を見ながら整理券と照らし合わせて用意する。大きなお金の場合、車両の中には両替機がないので、乗客はガマ口鞆を提げた車掌さんに声をかけてくずしてもらおう。整理券もお金も、手から手へと渡される。

電車は黒崎方面へ走る。筑豊香月、希望が丘高校前を過ぎ、筑豊中間で3人のおばあちゃんが、よいしょの合唱をしながら乗ってくる。てっきり旧知の仲と思ったら、電車を待っている間に知り合ったようだ。通谷を過ぎると「ファンツ」と気笛が鳴り、電車はぐんぐん加速した。今朝、下り方面に乗っていたときに、西山を過ぎたあたりから急に車体がずしずしと唸ったのは、ここが峠のポイントだったからだ。三ヶ森に着くと、たくさんの人が降りた。電停の目の前のスパーへ吸い込

と声をかけて降りていった。終点黒崎駅前に着くと、白いコートを着た奥さまが、「あらっ、やっぱり。そうかと思つたのよ、久しぶりねえ」と運転席をのぞき込んだ。「お久しぶりです」と、小野さんも返事をする。

電車営業所へ戻って、休憩の合間に話をした。小野さんは、昭和50年入社で勤続35年。長い月日、乗務している、自然と乗客の顔見知りも増えるという。「最近あの人、見んなあ」と同僚で安否を気遣ったりする。小学生のときから知っている子の結婚式に呼ばれた乗務員もいる。小野さんからこっそりと聞いた話によると、黒崎ヘデトに行つたときは「あんた、電車の人やろが」と話しかけられるのを恐れて、彼女と少し離れて歩いたこともあつたそうだ。「いや、ちくちつのは乗務員が花形やつたころの話やね。みんな車内恋愛で結婚したんよ」と小野さん。それを聞いて、わたしも！と、数人が自分を指さして誇らしげに振り返つた。女子学生にラブレターをもらう若きお父さんたちを想像した。そこにレールがある限り、電車の中にはこれ



三ヶ森／生地がもちもちの豚まん150円。『一龍飯店』八幡西区三ヶ森4-10-7 ☎093-612-6152

まれていく。お昼前は、ちようど主婦の買い物時間なのかもしれない。途中で、着物のおばあちゃんが、「今日もありがとさん、明日もよろしく」

までもこれから続いていく日常がある。

若いころのアルバムは家に置いてき



三ヶ森／こざる焼は、こんがり甘く158円也。『北九堂』八幡西区三ヶ森3-3-2 ☎093-611-1639

てしまったけれど。そう言つて小野さんが見せてくれたのは『筑豊電気鉄道社史』だった。ページをめくる。出だしはこんな一文で始まつていた。

——筑豊炭田地帯の重要性を考へる上で福岡市と北九州市を筑豊炭田地帯を経由して高速鉄道で結ぶことを西鉄の使命としてとりあげ……（後略）。

忘れていた、この鉄道の成り立ち。炭鉱によって生まれた道を、今日も昨日も行き来していたのだ。

土曜日の朝の車内は学生であふれて、



西山電停は、峠の谷あいにある。周囲はすっかり木々に囲まれて静か。坂道を登れば住宅街。迷路のように路地が繋がって、気付けば隣の三ヶ森に辿り着く。

そわそわと若々しい空気に満ちている。ちくちくつ沿いには中高合わせると多くの学校があるのだ。下るごとに生徒は減って、最後は女子高生3人になった。2人はポテトチップス、1人は魚肉ソーセージを食べながら、憧れの先輩の話をしている。

ほんの40〜50年ほど前まで、この沿線には住宅や学校の代わりに無数の炭鉱があった。昔のことを振り返ってあれこれ言うのはつまらないことかもしれない。でも、電車旅の最後の一日は、目的を持って街を歩きたかった。

8時30分、筑豊香月の電停を降りて東南方向へ歩く。現在の西鉄バス営業

所のちよūdōその背後が、大辻炭鉱という名の山だったと聞いたからだ。周囲には炭住も残っているかもしれない。10分ほどで大きな広場に着いた。香月中央公園とある。向かいにはバスプール。間違いない。意気込んで丘を見上げた。

天辺は平らに均され、三角と四角のケーキのような家が並んでいた。「分譲中」と大きな垂れ幕が光っている。公園のベンチに座って、ケーキの山を正面に見据えながら小倉駅で買ったハムサンドの封を切る。ひとくち。キジトラ猫が寄ってきたので分けてあげた。隣で体操をしていたおじさんが、「そ

の子かわいいやろ」と言う。「あの山に、廃鉱の建物は何が残っていましたか」と聞いてみたが、ああ、と気のない返事だった。

道が続く限り街はあり、電車は走る。そして時間の流れとともに役割を変えていくのが街だ。鉄道も同じ。

帰って調べると、大辻炭鉱の廃鉱跡は、2007年にすでに姿を消していた。帰りの寄り道は、三ヶ森のラーメン屋に決めていた。過去、車に乗ってわざわざ訪ねて2度ともお休みだったから、今日は電車で3度目の正直をねらう魂胆だ。暖簾は、ちゃんと出ていた。お腹がぐうと鳴った。



平尾台



スペースワールド
©SPACE WORLD, INC.

関門橋



小倉城

見どころ★
見つけばい!

北九州市においでませ!

見て、学んで、体験して、食べて、遊んで、充実のスポットが満載!!

いのちのたび博物館



JR 門司港駅



皿倉山夜景
(新日本三大夜景)



■お問い合わせ／北九州市観光情報コーナー Tel.093-541-4189

北九州の子育てお役立ち情報サイト

子育てマップ

KITAKYUSHU



リニューアル

子どもの成長に応じた
タイムリーな情報の提供

いっしょに、そだてよう。
いっしょに、そだとう。

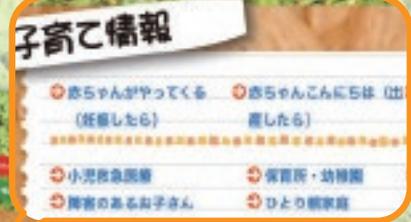
困ったこと・知りたいことを
スッキリ解決

情報交換ひろば
子育て知恵袋

人気のお題
2歳の娘に絵本の読み聞かせ

専門家が悩み解決!
子育てQ&A

ほめ方&叱り方のコツを教
えてください。



手軽に入手でき、
分かりやすい情報の提供

子育てインターネットテレビ
子ども・若者応援センター
「YELL」

2016年11月01日配信

子育て情報メール

お子様の年齢や居住区に応じた、子育てに関する情報を配信します。

登録はこちら

ホームページが
リニューアルして
ぐっと使い勝手が
良くなりました!

北九州の子育て情報が

ぎゅつ。と詰まっています!

北九州市(運営/NPO法人子ども未来ネットワーク北九州)

<http://maps.kosodate-fureai.jp/>

子育てマップ

検索

携帯サイトはこのQRコードから!

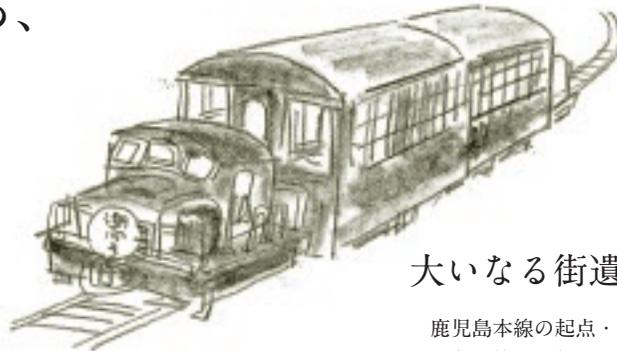
<http://maps.kosodate-fureai.jp/mobile/>



北九州市発、電車と駅にまつわるトピックス。

来たら乗る、着いたら降りてみる。 すると見つかる、 そして知る。

絵=牧野伊三夫 文=つるやももこ



木造駅舎がお出迎え。

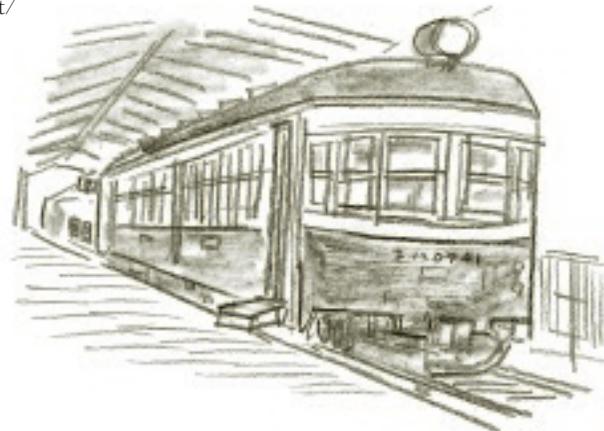
門司港駅の駅舎は、門司駅からの移転ともない、1914（大正3）年に建てられた。木造2階建てで、左右対称のデザインが特徴的。国指定の重要文化財に指定されている。関門トンネル開通以前は、連絡船との中継駅だったこともあり、改札脇には、構内から船着き場へ直通の通路も残されている。駅長室隣にひっそりとある階段を上っていくと、かつて貴賓室や食堂などがあった場所を一部開放して、写真資料室が設けられており、門司港の時代の移り変わりを知ることができる。また、この部屋の窓からは、ホームに乗り入れてくる鹿児島本線や車両基地の様子を見渡すことができる。「門司港駅写真資料室」入場無料。



トロッコ列車、潮風号。

門司港駅の側、九州鉄道記念館駅を起点に、関門海峡めかり駅までの4駅・約2.1キロを結ぶ真っ青な列車、「やまぎんレトロライン門司港レトロ観光列車・潮風号」は2009年春に開業。小型のディーゼル機関車がトロッコ列車2両を牽引して走る線路は、かつて穀物やセメントなどを、門司港から積み出し港であった田野浦埠頭まで運んだ臨港（貨物）線を活用している。

海岸線を通り、途中トンネルを抜け、終点までの所要時間は約10分。3～11月の土・日・祝および春休み・夏休み期間、1日に14往復運行。片道300円（子ども150円）。団体および貸切は要予約。「平成筑豊鉄道株式会社」<http://www.retro-line.net/>



大いなる街遺産。

鹿児島本線の起点・門司港駅の傍に、留置線に平行するように建つ赤レンガの建物が、九州鉄道記念館だ。1891（明治24）年、門司駅（現・門司港駅）。1914（大正3）年に現在の位置に移転）と共に建てられた旧九州鉄道会社の本社社屋を利用して2003年にオープンした。明治時代の客車の再現、九州の鉄道の歴史を知るための資料展示、屋外には実際の線路を利用した、蒸気機関車から電車まで歴代の車両の展示も行っている。2007年には、石炭輸送、貿易関連の施設として、経済産業省が認定する、近代化産業遺産に認定された。

「九州鉄道記念館」
門司区清滝2-3-29 ☎093-322-1006
9:00～17:00（入館～16:30）
第2水休 <http://www.k-rhm.jp/>

鐵の道を進むよ。

その名も「くろがね線」。当初は「炭滓線」と呼ばれていた。八幡東区と戸畑区、2か所に分かれてある新日本製鐵八幡製鐵所を結ぶ、全長約6キロの専用線路を走る鉄道だ。1930（昭和5）年に開業し、当初は八幡地区の高炉で鉄を作る際に出る鉱滓や石炭灰を戸畑地区の埋め立て場所へ運ぶ役目を担っていた。産業が街に線路を敷き鉄道を走らせるとは、なんとも壮大。現在は、輸送量の減少から単線となっているが、レール製造用の鋼塊やホットコイルなどを積荷して運行中。地図上で線路を辿ると、鹿児島本線（九州工大前駅付近とスペースワールド駅付近）と2度立体交差をしているのがわかる。途中はトンネルに入り、山を突き抜けるようにして走っているのも特徴。鹿児島本線の枝光駅ホームに立ちスペースワールド駅の方角を眺めると目に入る、エメラルドグリーンの陸橋の上を、ジェットコースターのレールを背景にずしずしと重く突き進む「くろがね線」の姿は圧巻。運行状況は非公開のため、問い合わせは不可。その雄姿にお目にかかれるかは、あなたの運次第です。



職人の現場。

西小倉駅と南小倉駅の間、日豊本線沿いに建つ「JR九州小倉工場」は、1891（明治24）年創業。目印は、ドーム型の屋根を持つ体育館のような建物と“安全第一”の大きな看板。JR九州が管理する1667両の電車・ディーゼル車などのうち、1486両が順次ここに集められ、定期的に整備・点検やリニューアル改造などが行われている。かつては、機関車・列車の製造も行われ、最盛期には3000人がこの場所で仕事に携わっていた。1台の車両ができあがるまでには、数え切れないほどの部品、組み立ての工程が必要。それゆえに、現場にはあらゆる技術を持った職人が在籍し、「小倉工場で作ることができないのは陶器だけ」と、言われた時代もあったという。現在は、677人の職人が現場を支えている。2009年には、当時の技術を知る工場OBと共に、SL（蒸気機関車）の復元に従事。現在「SL人吉」と名付けられた機関車は、熊本県を運行中。2010年12月には、点検・整備のために一旦、故郷・小倉へ里帰りをし、築97年、小倉工場でいちばんの歴史を誇るレンガ造りの車庫で、職人たちと再会を果たした。

毎年10月14日（鉄道の日）の前後に「工場まつり」を開催している。「JR九州小倉工場」
小倉北区金田3-1-1 ☎093-561-0125

ちくてつレインボー。

黒崎駅前電停と筑豊直方電停を行き来する筑豊電気鉄道の車両は現在、2両連接が9編成、3両連接が7編成稼働している。親会社である西日本鉄道からの乗り入れ車両だけで運行していた時代を経て、初の自社車両として導入されたのが2000形と呼ばれる車体。もともとは黄色地に赤のラインが入った車両で、通称「黄電」と呼ばれ親しまれていたが、2007年の点検の際に車体のお色直し計画を社が発案。ちょうど7編成だったこともあり、レインボーカラー化計画と称し、1年以上をかけて、赤色、緑色、青色、藍色、橙色、紫色、黄色に順次塗り替えられた。最後に残った黄電は、映画『おっぱいバレー』のロケに使用された後、一部に惜しまれつつも、その姿を緑色に一新。こうして、“ちくてつレインボー”電車が誕生した。「次は何色がやってくるか」。今では、電停で電車を待つ人の、ひとときの楽しみにもなっている。「筑豊電気鉄道株式会社」
<http://www.chikutetu.com/>



北九州学術研究都市

21世紀「環境と情報」の時代をリードする

北九州市立大学

国際環境工学部
国際環境工学研究科



■お問い合わせ
<http://www.kitakyu-u.ac.jp/env/>
E-mail:admin-sec@env.kitakyu-u.ac.jp
TEL:093-695-3340

生体や脳の優れた機能を工学に
応用する国立大学大学院

九州工業大学大学院

生命体工学研究科
生体機能専攻/脳情報専攻



■お問い合わせ
<http://www.isse.kyutech.ac.jp/>
E-mail:sei-gakumu@jimu.kyutech.ac.jp
TEL:093-695-6006

今北九州から世界の先へ
技術の先へ進む早稲田

早稲田大学大学院

情報生産システム研究科
情報生産システム工学専攻



■お問い合わせ
<http://www.waseda.jp/ips/>
E-mail:gsips@list.waseda.jp
TEL:093-692-5017

あなたが環境をデザインする

福岡大学大学院

工学研究科
資源循環・環境工学専攻
エネルギー・環境システム工学専攻



■お問い合わせ
<http://www.fukuoka-u.ac.jp/>
E-mail:gakuin@adm.fukuoka-u.ac.jp
TEL:092-871-6631



共同研究しませんか？

北九州学術研究都市には北九州市立大学をはじめとした1学部4大学院と15の研究機関、54の企業等が集積し、活発な研究開発や産学連携活動が進められています。(平成23年1月現在)

大学シーズを活用した起業も活発で、学研都市発ベンチャー企業が10社誕生するなど、「環境技術」と「情報技術」を中心に、大学の「知」を活用した、地域産業の振興が図られています。

北九州学術研究都市には5つの産学連携施設が配置され、貸し研究室やIC等の試作を行う研究開発室の提供など、充実した支援体制を整えています。

また、(財)北九州産業学術推進機構【FAIS】がキャンパスの一体的運営や企業と大学の連携をサポートするコーディネーターとして設置されており、入居企業の支援や産学連携活動のお手伝いをいたします。

平成22年度からは先導的な低炭素化技術の研究拠点化に向けての取り組みも始めています。

入居企業募集中！

アクセス

- 公共交通機関の場合
 - JR折尾駅 西口バス停 → 市営バス → 学研都市ひびきのバス停(約15分)
 - JR黒崎駅 → 市営バス/西鉄バス → 学研都市ひびきのバス停(約30分)
 - 北九州空港 バス停 → 市営バス → 学研都市ひびきのバス停(約70分)
- 車をご利用の場合
 - 北九州都市高速道路 黒崎出入口 (黒崎・折尾出口下車折尾方面へ)

学研都市(都市高速黒崎出口から約20分)



お問い合わせ
(入居・産学連携のご相談)



財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS) 総務企画部
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2番1号 産学連携センター1F
Tel:093-695-3111 Fax:093-695-3010
E-mail:info@ksrp.or.jp URL:<http://www.ksrp.or.jp/fais/>

北九州市 学研 検索

北九州市は、多くの魅力にあふれています。この場所に会いに、出かけませんか？

快適生活+職=北九州LIFE

北九州市
U・Iターン
促進事業

いいところ
たくさん!

生活費が安い

消費者物価指数は政令市の中でも低く、民間賃貸住宅の家賃は東京都区部の半分以下。転入世帯の住宅購入を支援する制度もあり、人生設計を見直すチャンスかも。

食べ物が美味しい

食は生活の基本。近郊の産地で育った新鮮で美味しい旬の野菜や果物、魚介類が手軽に安く手に入ります。海にも山にも近い北九州ならではの豊かな食材。

身近な自然

山、海、川のどれを取っても都心部から車で40分程度でたどり着く自然豊富な北九州。休みには気軽にアウトドアを楽しみ、ほっと心を癒すことが出来ます。家族との充実した時間作りにも最適です。

安心の子育て環境

親子で安心して、安全に思い切り遊べる施設や24時間365日小児救急を行っている医療体制(市内に4ヶ所)は高い評価を受けています。

+ じっくり充実勤務

製造業のイメージが強い北九州ですが、IT、医療・福祉、サービス業などの求人も多く登録されています。一所でじっくりと取り組み、成果が実感できる中小企業の求人も。あなたのこれまでの経験を北九州で生かして、さらに充実した時間を過ごしませんか？

北九州市内企業の求人情報を公開中!

北九州市 Uターン

U・Iターン促進事業サイト
<http://www.shigotomarugoto.info/ui-turn/>

北九州市 産業経済局 雇用開発課 ☎0120-0296-46
おふくろ よろこぶ

関門紀行 海峡めぐり



下関市

食を極めれば、
ふく刺し、焼きカレー、瓦そば、焼うどん。
歴史を辿れば、
蔵流島の決戦、壇ノ浦の戦い、明治維新。
文化を求めれば、
松本清張、金子みすゞ、森鷗外、田中絹代。
旧跡を巡れば、
門司港レトロ、城下町長府。
関門海峡の絶景を楽しむ、
めかり公園展望台、火の山公園展望台。
雄大な海峡景観と、
どこか懐かしさ漂うレトロな街並み。
『関門』への誘いです。



ようこそ!
かんもん
関門
下関市 SHIMONOSEKI 北九州市 KITAKYUSHU
KANMON DISTRICT

関門地域行政連絡会議
☎083-231-1911 ☎093-582-2156



別府アルゲリッチ音楽祭in北九州

マルタ・アルゲリッチと仲間たち ～ 紡ぎ出す至高の調べ～

2011年 **5月16日**(月)

開演19:00(開場18:00)

アルモニーサンク (旧九州厚生年金会館)
北九州ソレイユホール

S席12,600円 A席10,500円 B席8,400円(学生4,200円)
全席指定 ※未就学児入場不可

【チケット発売日】

◎ひびき音楽友の会先行発売：2月15日(火)10:00より

◎一般発売：2月22日(火)10:00より

【チケット取り扱い】

(財)北九州市芸術文化振興財団(平日9:00～17:00) 093-663-6661

北九州芸術劇場5Fプレイガイド(10:00～19:00) 093-562-2655

響ホール事務室(9:00～17:00) 093-662-4010

チケットぴあ(Pコード122-193) 0570-02-9999

ローソンチケット(Lコード84792) 0570-084-008

北九州ソレイユホール(9:00～18:00) 093-592-5405

【プログラム(予定)】

ベートーヴェン：ピアノ四重奏曲 八長調 WoO.36-3

シューマン：おとぎ話の挿絵 op.113

シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 op.44 他を予定

※プログラム、出演者は変更になることがあります。

Argerich's®



ユリー・バシュメット(ヴァイオリン)



清水高師(ヴァイオリン)



キム・スーマン(ヴァイオリン)



ユンソン(チェロ)



伊藤京子(おはなし)

■主催：別府アルゲリッチ音楽祭in北九州実行委員会 ■共催：財団法人アルゲリッチ芸術振興財団

■公演・チケットに関するお問合せ

別府アルゲリッチ音楽祭in北九州実行委員会 事務局

受付時間/9:00～17:00(土日祝日は休み)

TEL 093-663-6661 <http://www.kicpac.org/music/argerich.23.html>

■しいきSeatに関するお問合せ

財団法人アルゲリッチ芸術振興財団 事務局

受付時間/11:00～18:00(土日祝日は休み)

TEL 0977-27-2299 <http://www.argerich-mf.jp>

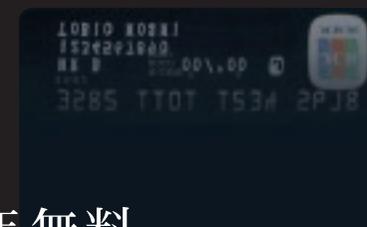
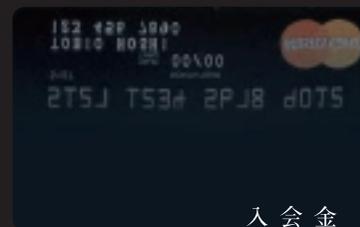


STARFLYER

CREDIT CARD × MILEAGE

STARFLYER CARD

デザインで選ぶステイタス。



年会費 永年無料

マイレージ機能付クレジットカード

詳しくは

www.starflyer.jp

マイページ機能などWEBが使いやすくなりました

Good Design 日本経済新聞「新日本様式」

For the next generation 次の世代のために



マンションは オーヴィジョン

「オーヴィジョンマンションシリーズ」は、地球環境のためにエコエートの採用を続けています。
Challenge to Next!

株式会社 エストラスト

本社: 山口県下関市椿野町3丁目12番1号 TEL.083-229-1456
福岡支店: 福岡市博多区博多駅前4丁目4-23-7F TEL.092-452-5551
宅地建物取引業/国土交通大臣(2)第7207号 建設業/山口県知事(4)第18142号 一般建築士事務所/山口県知事登録 第2330号

ホームページ <http://www.strust.co.jp>

検索ワード 検索

北九州 業界一 初上陸 ロボスキンアナライザーを新たに導入。
高精度な肌画像解析・診断システムを用いてお肌の表面や奥深く細かい状態まで測定し、より適切な治療が行えます。

院長 **小住 和徳** Ozumi Kazunori
〈社〉日本美容医療協会 適正認定医院

形成・美容外科・皮膚科

OZUMIクリニック

アンチエイジング研究所・レーザー治療研究所
北九州市小倉南区長行東2丁目14-11(モノレール「徳力嵐山口駅」下車5分)

■完全時間予約制/9:30~18:00 ■診療時間/10:00~18:00
■木曜日休診・日曜祝日無休 ■院内駐車場30台完備

美容外科	●カラーゲル、ヒアルロン酸注入 ●プラセンタ注射 ●シミ・ホクロ取り
●目 二重、目頭切開、眼瞼下垂など ●鼻 隆鼻術、だんご鼻、鼻翼の縮小など ●顔のシルエット 顔の輪郭(頬骨・エラ・アゴなど) ●顔の若返り手術 フェイスリフト・アイリフトなど ●フェザーリフト(メスを使わない若返り手術) ●レーザー・レジュビネーション(若返り) ●乳房(豊胸術、陥没乳頭、たれ乳など) ●脂肪吸引・脂肪注入 ●レーザー脱毛(コンビネーション脱毛)	形成外科(保険診療) ●口唇裂などの先天異常 ●ワキガ ●やけど・ケロイド・傷あと、腫瘍など
皮膚科(保険診療) ●ニキビ ●しみ ●肌あれ など	

入院設備完備

TEL(093)452-1117(代)
◆◆最新情報をお届けします◆◆

本サイト <http://www.ozumi.jp/>
脱毛サイト <http://www.ozumi.net/>
美容皮膚科サイト <http://www.ozumi-hifuka.net/>



学校法人 九州国際大学 <http://www.kiu.ac.jp/> 九州国際大学 検索

一人ひとりを成長させる大学

九州国際大学

Kyushu International University



法学部	法律学科	リスクマネジメントコース 資格取得・不動産管理コース
経済学部	経済学科	地域づくりコース
	経営学科	ビジネス・アカウンティング・コース ビジネスリーダー・コース
国際関係学部	国際関係学科	英語コース/ハングルコース 観光ビジネスコース/国際協力コース
大学院	法学研究科	修士課程
	企業政策研究科	修士課程
別科日本語研修課程		

〒805-8512 北九州市八幡東区平野1-6-1 TEL.093-671-8910 FAX.093-671-9035

九州国際大学附属高等学校
Kyushu International University High School
夢と目標が実現できる
実力とやる気を高め、生徒の第一志望をかなえます。
難関クラス 特進クラス 進特進クラス 進学クラス
国際コミュニケーションクラス トップアスリートクラス

九州国際大学附属中学校
Kyushu International University Junior High School
未来を創る人へ
「熟練精神」で励ましあい、磨き合います。
個性と能力を最大限引き出します。
21世紀の国際社会を支える基盤を作ります。

〒805-0002 北九州市八幡東区枝光5-9-1
【高等学校】TEL.093-671-8443 【中学校】TEL.093-671-9001

CITYLINE 名門大洋フェリーで行く 2泊3日 毎日出発

エポカ・スタジオ・ジャパンの旅

現地までの快適な旅をお楽しみください!

スタジオ・バス(1日券)ついて!

2等利用プラン

2011.1/13(木)~3/17(水) 6泊7日 11,800円	2011.3/18(金)~3/30(水) 6泊7日 14,800円
-----------------------------------	-----------------------------------

おとな(中学生以上)お一人様
子ども(小学生)お一人様

1等個室プラン、2等利用からのフェリー等級変更プラン、もあります。お気軽にお問い合わせ下さい。

行	新門司港	宿泊
1 JR小倉駅北口(無料送迎バス)〜フェリーターミナル〜新門司港発 16:40	20:00	船中泊
2 大分南港着 08:20	大分南港着 20:00	船中泊
3 新門司港着 08:20	JR小倉駅北口 09:10	

お申し込み・お問い合わせは (旅行企画・実施) **CIT 株式会社シティライントラベル**
〒812-0024 福岡市博多区綱場町1番1号(福岡第一生命館3階)
TEL.092-271-2511 ●営業時間/9:00~17:15 ●定休日/第2・4土曜日、日曜・祝日

日本屈指の安さ!!

アトム物置

GA-5型物置	サイズ/ 幅 1,834mm x 奥行 780mm x 高さ 1,920mm	29,800円
GA-7型物置	サイズ/ 幅 1,834mm x 奥行 1,170mm x 高さ 1,920mm	34,800円
GA-9型物置	サイズ/ 幅 1,834mm x 奥行 1,560mm x 高さ 1,920mm	39,800円

★ベアリング付吊戸で開け閉めラクラク!
★棚は別売りです。(物置と別送の場合は別途送料がかかります)
★美しいガルバリウム鋼板と外部にはステンレスポルトを使用していますのでモダン住宅にもマッチすると思います。
★弊社では屋外用犬舎を平成9年1月より約1万3千台販売いたしました。それに使用したガルバリウム鋼板製パネルは4万枚以上になりますが、これまで錆や耐久性のクレームは皆無です。安心してご使用いただけると思います。

10年保証

ガルバリウムってなに?!

元祖、ガルバリウム物置としてガルバリウムを塗装せずにそのまま使用する当社独自の製法で平成20年から販売を始めました。

アトム物置株式会社 福岡県鞍手郡小竹町大字御徳1772
TEL.09496-2-6488 FAX.09496-2-6415
メールから atom@fukuokaeden.jp ホームページから <http://atom1.fukuokaeden.jp>

地元をいっしょに元気になりたい。

ゼンリンの原点は、「地元で商売をしている人の役に立つものをつくりたい」と始めた、62年前の別府の地図づくり。昔も今も、生活者にとって日本のなかにローカルがあるのではありません。地元こそが、グローバルの生みの親なのだ、私たちは考えます。「Actiz(アクティズ)」は、住んでる街が好きになる暮らしに役立つさまざまな情報を、パソコン・モバイル・電子書籍・地図情報マガジンの4つのメディアで提供する新しいコミュニケーションメディア。地域ネットワークの新しいカタチの提案で、ゼンリンは「地元」の元気を応援します。

地図情報マガジン Actiz mi-ru-to【みると】
モバイルサイト Actiz.jp mobile
電子書籍 Actiz eBook
パソコンサイト Actiz.jp

ゼンリンの新しいコミュニケーションメディア【Actiz(アクティズ)】
「便利な地域情報がすべて無料でご利用いただけます。」
※本サービス利用にともなう通信料金は、ユーザーのご負担となります。
※Actiz mi-ru-to【みると】は、該当地域の全戸を対象にポスティングにて無料配布されます。

<http://www.actiz.jp/>

北九州特産品の旨い店 開業講座 受講無料

「将来自分の店が持たたい!」、「仲間と地元の特産品を使ったカフェやレストランを開きたい!」そんな人をお待ちです。

時期: 2011年2月~3月にかけて
プレ講座+本講座4回

- 会場: I'mホール(COLET/I'm 10階)
- 申込み方法/
クロスFMホームページ「TOPICS」から
<http://www.crossfm.co.jp>

北九州を日々隅々まで取材している私が楽しく講座を進行していきます!



講師 鶴田 弥生
cross fm
北九魂-Kitakyu Spirit-
ナビゲーター

講師紹介 食・マーケティング・まちとの付き合い... 各界のスペシャリストたちが熱く教えます

コンサルタント



有川 伸彦
(ライズデザイン(株)代表取締役、店舗設計・マーケティング)

内容はいいのに、見せ方、アピールの仕方がうまくない...そんな「北九州の課題」に必要なノウハウを持つ人物。ココロ株式会社でオフィスデザインを担当後インテリアデザインの世界へ転進、福岡市にライズデザイン創業単なるデザイン・設計ではなく、マーケティングに基づく戦略的な店舗経営をサポートする。



ほかにも北九州市内の先輩店舗が、パネルディスカッションやクロスFMの番組で登場予定です!

主催/共催 北九州市雇用創造協議会/北九州市
TEL&FAX 093-581-9361 <http://kitaq-challenge.jp/project>

- プレ講座
- 北九州の特産品を知る
 - 北九州らしさ、地域イメージと北九州特産品の戦略的活用法
 - 北九州の旨いものが食える店のオーナー集合

本講座	
1日目	開業準備編(1) 飲食店経営の心構え 特別講演:ふどうの樹オーナー 小役丸秀一氏(予定) 飲食店経営のノウハウ①コンセプト、ターゲット、マーケティングなど、フロントヤード部分を中心に
2日目	開業準備編(2) 飲食店経営の心構え 講師:有川伸彦氏/仕入先マッチングや店舗計画、資金計画などバックヤード部分を中心に
3日目	開業準備編(3) 飲食店経営の心構え 講師:有川伸彦氏/開業までのスケジュールと to doリスト、人員計画、人材教育
4日目	開業準備編(4) 集客のために 特別講演:食のライター 森千鶴子氏(予定) 地域の特産品を扱う意義、地域と一緒に広げる方法、PRのノウハウ マス媒体・ロコメディア活用法 講師:有川伸彦氏、富田剛史(cross fm プロデューサー)

*アンケート

『雲のうえ』は、刻々と移りゆく北九州市の「いま」を、毎月ひとつのテーマに沿って描き出す情報誌です。14号へのご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、綴り込みはがきでお寄せください。抽選で17名の方に以下のプレゼントをお贈りいたします。2011年6月30日消印有効。当選の発表は発送をもって代させていただきます。応募はおひとりさま1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますのでご注意ください。

A: 北九州一東京羽田間ペア復航空券目録 (株式会社スターフライヤー) ⇒ 1名様

B: STARFLYER × CONRAN ウォッチ (株式会社スターフライヤー) ⇒ 2名様

C: ホテルペア宿泊券 (北九州八幡ロイヤルホテル・千草ホテル・ホテルクラウンパレス北九州・ホテルクラウンパレス小倉・ホテルニュータガワ・門司港ホテル・リーガロイヤルホテル小倉) ⇒ 各1名様
*ご希望のホテル名をお書きください。

D: ペアフリーパス券 (株式会社スペースワールド) ⇒ 2名様

E: 北九州市ふるさとかるた (北九州市にぎわいづくり懇話会) ⇒ 5名様



© SPACE WORLD, INC. ©2011 SUSUMU MATSUSHITA ENTERPRISE

青雲/白雲

*特集「夜のまち」がすこく心地よく感じたのは歳をとったせいでしょうか。井上陽水の譜面がこんなに似合う街はないのには、

* 福岡県福岡市: 50歳女性
* 福岡県北九州市: 35歳女性
* 福岡県北九州市: 37歳女性
* 福岡県北九州市: 44歳女性
* 福岡県北九州市: 48歳女性
* 福岡県北九州市: 24歳男性
* 福岡県北九州市: 26歳女性
* 福岡県北九州市: 25歳男性
* 福岡県北九州市: 34歳女性
* 福岡県北九州市: 42歳女性

好きな主人と2人で、13号で紹介されていた店々を訪ねてみたいと思います。それまで本を大切にとつておきます。福岡県中間市(41歳女性)
* フリーペーパーの中で、ぜひ継続してほしい一冊だと思います。
* おいしいお店がまだまだ隠れていると思いますので、ぜひともご紹介していただきたい。もつと小倉のファンになる予感がしています。
* 北九州市に60年以上住んでいますが、知らないことが紹介されていて目からうろこです。
* 北九州市に60年以上住んでいますが、知らないことが紹介されていて目からうろこです。
* 産業の街では、新しいものばかりが目について、古くから愛されたもの、店、文化を忘れていました。
* 福岡県遠賀郡(49歳女性)
* 新しい店ばかりが気になっていて、昔からやっていたお店を知ることができました。お酒は飲めないうえに、夜、バー等に行ってみたくありません。
* 山口県下関市(36歳女性)
* 毎月2、3回はスターフライヤーに乗りますから、何か月も同じ号だと残念。月1回の発行になるといいと思います。(八幡西区、48歳女性)
* 小倉のファッションは独特の雰囲気があり、都内や大阪顔負けの、惹

かれる店が多いです。機会があれば特集してほしい。
* (東京都杉並区、25歳男性)
* 初めで読みました。下町っぽいところが、温かい街なんだなあと思いました。
* (福岡県うきは市、26歳女性)
* 市が取り組んでいるエコを特集してほしい。(大分県中津市、61歳男性)
* 今月号を、味わい深いものが、人情味豊かなものが多く残ることを知り、郷土愛が深まりました。「市にはこれといって何も無い」。お恥ずかしいながらそう思っていました。他県から来られる人たちに、胸を張って街をお勧めできるようにしたい。そう思わせてくれる内容でした。
* (小倉南区、34歳女性)
* 羽田に向かっている機内で読みましたが、北九州に戻りたくなくなりました。
* (神奈川県藤沢市、42歳女性)
* ガイドブックからは知ることができない街の顔を垣間見た感じがします。人々にスポットを当てると違った一面が見えてきますね。
* (神奈川県藤沢市、24歳男性)
* おたよりをお待ちしております。綴り込みはがきをご利用ください。掲載させていただいた方には、小さな記念品を差し上げます。

*バックナンバー

『雲のうえ』1・2・3・4・5・8・9・10・11 在庫切れ

『雲のうえ』6 在庫僅少
特集: 街の劇場。

『雲のうえ』7 在庫僅少
特集: 馬と艇と輪と。

『雲のうえ』12
特集: 海よ、波よ、魚よ。

『雲のうえ』13
特集: 夜のまち。



◎送付ご希望の方は、お名前、ご住所、連絡先の電話番号、ご希望の号を明記のうえ、冊数分の切手(1冊/180円分、2冊/210円分、3~4冊/290円分)を同封し、下記までお送りください。なお、送付は1号につきおひとりさま1冊とし、予定数に達しましたら終了させていただきますのでご了承ください。

〒803-8501 北九州市小倉北区内1番1号
北九州市企画文化局シティプロモーション部
『雲のうえ』送付係

次号以降の予告

最新の発行情報は、北九州市にぎわいづくり懇話会ウェブサイト (<http://www.lets-city.jp/>) でお知らせしていきます。



京都 細見美術館

琳派・若冲と雅の世界

Rimpa, Jakuchu

and the World of Elegance:
Selections from the Hosomi Collection, Kyoto

2011年
1月2日(日)→2月13日(日)

開館時間/9:30~17:30(入館は17:00まで)
休館日/毎週月曜日
観覧料/一般1,000円(800円)、高大生600円(400円)、小中生400円(300円)

※()内は前売りの20名以上の団体料金
※開館前手帳および年長児童利用証(北九州市交付のもの)を提示の方は無料
※観覧券は、ロイヤルチケット(1号~#85089)、チケットぴあ(Qコード:764-422)、セブンイレブン、小倉井筒屋、黒崎井筒屋、北九州モノレール主要駅、筑豊電気鉄道主要駅ほか主要プレイガイドで発売。

主催:北九州市立美術館 細見美術館 読売新聞西日本本社
後援:NHK北九州放送局 九州旅客鉄道株式会社 西日本鉄道株式会社
北九州モノレール 筑豊電気鉄道株式会社

北九州市立美術館・本館
KITAKYUSHU MUNICIPAL MUSEUM OF ART

北九州市戸畑区西幡ヶ谷町21-1 Tel.093-882-7777 <http://www.kmma.jp>

伊藤若冲(中世徳園)(部分)紙本着色、江戸中期
《秋草鹿鹿文台》(部分)木製漆塗 桃山時代



北九州芸術劇場プロデュース

BEN

チケット好評発売中

【チケット取扱】
北九州芸術劇場プレイガイド・響ホール事務局
財団法人北九州芸術文化振興財団(土、日、祝は除く)
チケットぴあ・ローソンチケット・セブン-イレブン店頭ほか

【企画・製作・お問い合わせ】
北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1番1号-11 リバーウォーク北九州内
Tel.093-562-2655

- 全席指定・当日名 ¥500増・未就学児入場不可
- 10名様以上のグループ観劇受付中(宣伝営業課TEL093-562-2620)
- 託児あり(北九州のみ) / 有料(要予約)プリーダイヤル0120-400-829 TEL093-882-5063)

人生にトイレあり。これは、観客一人一人の物語になりそうです。

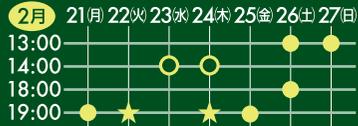
“〈北九州〉という地域の特色を出すこと”が特徴のオリジナル作品シリーズ4作目となる「BEN」は、“トイレ”を中心に昭和の庶民の悲喜こもごもを描く心温まる人情コメディ。

人の目を気にせず、パンツを下ろすトイレだからこそ見えてくる、本音や、夢や、苦しみ。そしてトイレに革命を起こす男達の物語。コメディの名手、作・鈴木聡×演出・松村武がタッグを組み、笑って笑って最後はホロリとする人間くさ〜い物語を贈ります。ご期待ください。



作 鈴木聡 演出 松村武

■北九州公演 ◇北九州芸術劇場・小劇場



■東京公演 10/11あうるすぽっとタイプアップ公演シリーズ
◇あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)



★=アフタートークあり
○=平日昼ちよい得料金・各¥300割引

◇北九州・東京共通
一般 ¥3000

学生 ¥2500 (小〜大学生*要学生証提示)

*2/23日・24日 14:00の回は
平日昼ちよい得料金・各¥300割引

◇作 鈴木聡(ラッパ屋)

◇演出 松村武(カムカムミニキーナ)

◇出演

穴迫信一、有門正太郎(飛ぶ劇場)

井口誠司(劇団テアトルハカタ)、池田幸子

今村映子(henhouse)、沖田みやこ(のこざれ劇場)

折元沙亜耶、加賀田浩二(飛ぶ劇場)、小林類

酒瀬川真世(che carino/che carina!)、上瀧征宏

白石萌、谷村純一、仲島広隆、ヒガシユキコ

【主催】財団法人北九州芸術文化振興財団

【共催】北九州市 / 財団法人あうるすぽっと(東京公演)

【助成】平成22年度文化庁芸術拠点形成事業

(地域創造(北九州公演))

【協賛】TOTO株式会社